



世界を視野に
地域から始めよう

平成23年度

 宮崎大学概要



『世界を視野に 地域から始めよう』



宮崎大学長

菅 沼 龍 夫

宮崎大学は平成15年10月に旧宮崎大学と宮崎医科大学が統合し、教育文化学部、医学部、工学部ならびに農学部からなる新生宮崎大学として「世界を視野に 地域から始めよう」のスローガンを掲げ、新たな歩みを始めています。

宮崎大学はこれまでに、統合、法人化のメリットを活かした特色ある大学改革に積極的に取り組んできました。平成19年には農学と工学が融合した全国初の農学工学総合研究科博士後期課程を開設し、宮崎県の基幹産業である農林畜産水産業の振興はもとより、太陽光発電システムの教育研究拠点形成をはじめとする工業振興にも組織的に取り組んでいます。平成20年には教育現場での指導的教員を養成するために、教職大学院（教育学研究科教職実践開発専攻）を設置することができました。さらに、平成22年4月には医学および獣医学という極めて密接な学問的背景と宮崎県が日本でも有数の畜産県であるという特色も踏まえて、医学と獣医学が融合した、全国初の医学獣医学総合研究科博士課程を新たに開設したところです。昨年4月に宮崎県で発生した口蹄疫は29万頭に上る偶蹄動物を殺処分することで終息することができましたが、本年1月には鳥インフルエンザも発生し、宮崎県の畜産は大きな被害を受けることとなりました。宮崎大学は学問的検証を行い、21世紀に相応しい畜産の構築に協力しています。

医学部附属病院は宮崎県唯一の特定機能病院として宮崎県民の医療・福祉の向上に取り組んで参りました。昨年5月から病院再整備事業の一環として新外来診療棟での外来診療を開始しました。一連の病院再整備事業が完了しますと、名実共に最先端医療を担う、地域の中核医療拠点として生まれ変わります。また、宮崎県からの寄附講座として地域医療学講座が22年度からスタートし、宮崎県の地域医療の充実に取り組んでいます。

宮崎大学は生命科学、環境科学、エネルギー科学の分野において、国際的に通用する、特色ある高度な学術研究を世界へ発信しています。地球規模で自らの将来を俯瞰できる人材を育成し、地域の知の拠点として燦し銀のように輝き続ける大学を目指して、不断の改革を進めています。

2011年は忘れることができない年となりました。東日本大震災によりかけがえのない多くの命が失われ、震災からの復興は緒についたばかりです。福島第一原子力発電所の放射能漏れ事故は未だ予断を許さない状況です。我々の科学技術力が大地震の猛威に対して如何に脆弱であるかを示しました。宮崎大学は人々が安心して暮らせる社会の構築を担うことができる有為の人材を輩出します。

平成23年度

宮崎大学概要

CONTENTS

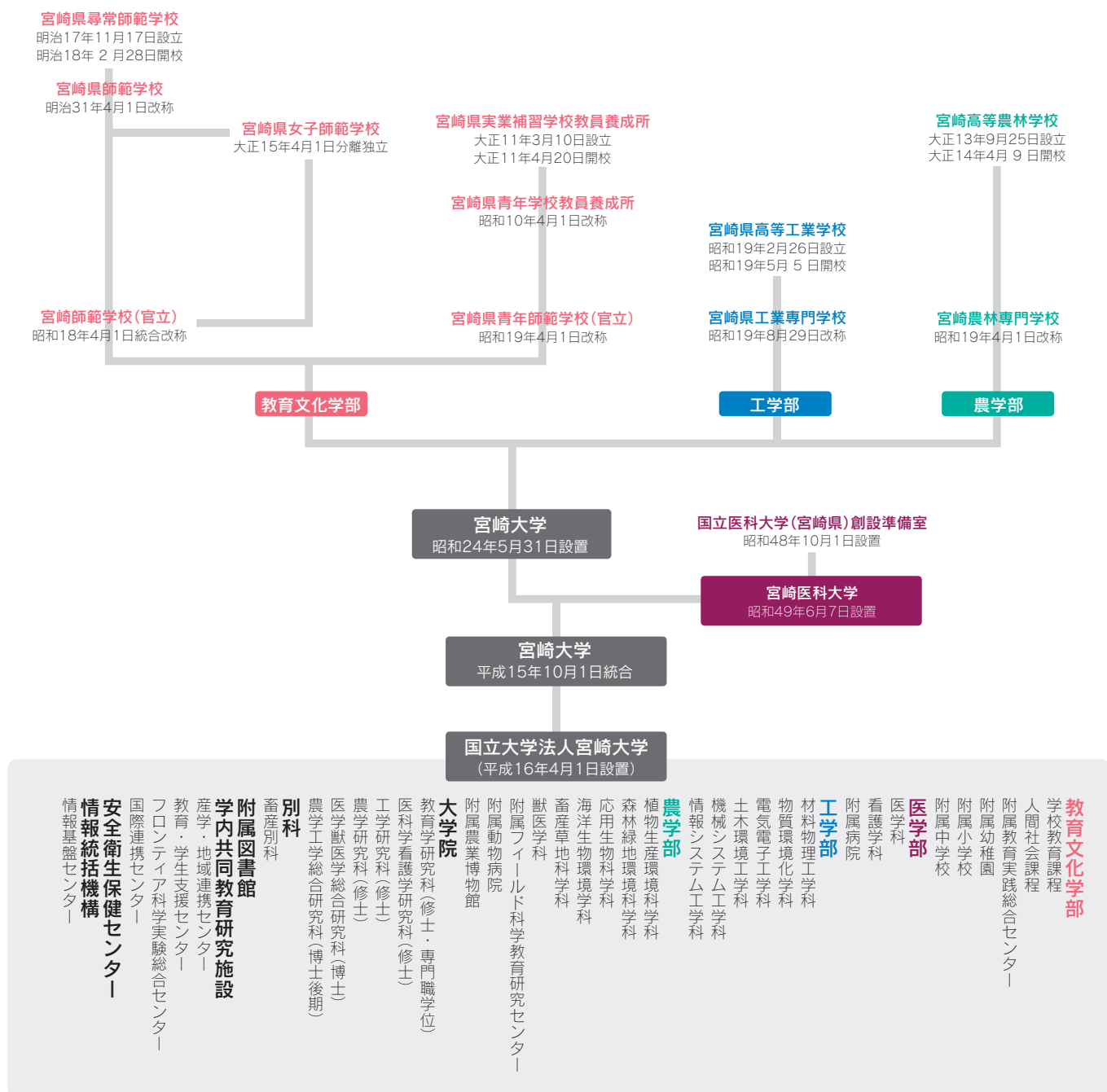
学長挨拶	1
目次	2
大学の理念・目的	3
シンボルマークについて	3
宮崎大学オリジナルキャラクター	3
大学のスローガン	3
宮崎大学の歌	3
年間スケジュール	4
沿革	4
教育の特色	5
研究の特色	7
学部紹介	
教育文化学部	9
医学部	11
工学部	13
農学部	15
大学院紹介	
教育学研究科	17
医科学看護学研究科	18
工学研究科	19
農学研究科	20
医学獣医学総合研究科	21
農学工学総合研究科	22
附属図書館	23
学内共同教育研究施設	24
安全衛生保健センター	25
情報統括機構	25
国際交流	26
地域貢献	27
キャンパスマップ	29
アクセス	31
資料編	32

年間スケジュール

4月 学年学期始・前学期開始	11月 大学祭
入学式	12月 冬季休業
8月 夏季休業	3月 卒業式・修了式
9月 前学期終了	春季休業
10月 後学期開始	後学期終了

※変更となる場合もあります。

沿革



宮崎大学の教育の特色

宮崎大学は、人類の生活にとって欠かすことのできない生命、環境、エネルギーを凝視^{みつ}めて大学創りに取り組み、高度な学術研究成果を地域社会、そして広く世界に向けて発信しています。本学では、総合的な教養教育（共通教育）と実践力の基盤となる専門基礎教育を中心とする学部教育を基本とし、大学院教育では、社会の指導的役割を果たすべきより高度な専門性の向上を目指しています。

グローバルに変動する社会、そして、時には驚異を伴った自然環境の変遷の中で共生していく人間力を養う上で共通教育は重要な役割を果たしています。共通教育では、「世界を視野に 地域から始めよう」のスローガンのもと、世界に羽ばたくために欠かせない外国語によるコミュニケーション能力の向上に向けて学士課程一環の学習プログラムを構築しています。また、進化し続ける情報処理能力など新時代に不可欠な知力・技能の修得に向けてパソコン必携の教育を行っています。さらに、地域に根ざし、人生設計に関わるキャリアデザインを学び、かつ、幅広い人間関係の構築そして豊かな学生生活を送り社会に巣立つための底辺を支える骨格形成に取り組んでいます。全学からこれらに携わる教員は、プロとして自覚を持ち、学問を追究する姿勢や生き方を語るなど、学生の学ぶ意欲や目的意識を刺激するべく、絶えず教育内容や方法の改善に努めています。

専門教育は、共通教育と並行して学年進行に伴って基礎知識の導入に始まって応用へと発展していきます。専門教育の特色は、豊かな地域的特性を活用した実践型専門技術者養成プログラムとの連携にあります。すなわち、広く社会に課題を探求し、自ら解決していく実践的な知力・技能を修得し、変動する社会の多様な要請に応えています。いくつか挙げると、国挙げての課題である地域

医療支援を重視した臨床医教育、国際的教育効果の保証（JABEE）による認証を受けた専門技術者教育、畜産基地としてわが国の重要拠点の一つを成す人獣共通感染症教育、今まさに注目されている太陽光・太陽熱発電や環境負荷低減のための専門技術開発など、学部間や他機関との協力により取り組んでいます。

本学の教育の大きな特色が大学院教育にあります。修士課程では、他大学と協定し動植物の遺伝子操作に関わる専門技術者養成プログラムを実施しています。また、博士課程では、農学と工学が融合した農学工学総合研究科を、医学と獣医学を融合した医学獣医学総合研究科を、それぞれ全国に先駆けて創設しました。このように、縦割りの学問分野による知識伝達型の教育や単なる専門教育ではなく、他大学やこれまで領域を異にしていた分野を融合させて相互の質を向上させ、かつ、従来手の届き難かった融合領域にも新たな研究者や技術者を輩出しています。また、教職大学院（教職実践開発専攻）を開設し、高度な実践力・応用力を備えた新人教員の養成や高度な教育理論に支えられたスクールリーダーの養成を行っています。

一方、課外活動などを通じて協調性や指導力などの資質を磨くこと、各種メディアや情報を用いた解析力や理解力を身に付けること、国内外の体験から社会とのかかわりについて考えを深めることも重要な課題です。本学では、学生自身が企画、運営し大学や地域社会を活性化していく素養を身に付けることを目的として、「とっても元気！宮大チャレンジ・プログラム」事業を継続しており、これまでに様々な成果を産み出しています。このように、大学教育が、「学ぶ自由を与えられる」ものとしてではなく、「自由に学ぶ」という理念に支えられるよう教職員一同「学びやすい環境」創りに取り組んでいます。



宮崎大学の教育戦略

宮崎大学の教育目標

1. 人間性の教育

- 高い倫理性と責任感を育むとともに、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する。

2. 社会性・国際性の教育

- 生命や環境保全の科学に親しむとともに、広く自然や社会に触れ、現場から学ぶ態度を育成する。

- 社会の多様な要請に対応して、社会の発展に積極的に貢献できる課題解決能力を育成する。

3. 専門性の教育

- 柔軟で論理的な思考力を育成するとともに、日本語による記述・発表の能力や外国語によるコミュニケーション能力を育成する。

- それぞれの専門分野に関する基礎的知識を修得し、それらを活用できる能力を育成するとともに、専門分野への深い興味を育み、課題探求および解決能力、自発的に学習する能力を育成する。

- 新たな知の創造につながる専門教育を実施し、総合的判断力を育成する。

- 大学院においては、高度の専門知識、研究能力および教育能力を備えた人材を養成する。

目標を実現するための戦略 (教育の質の向上を図る)

— 学生が伸びる大学教育 —

人間性・社会性・国際性の教育

教養教育の体制の確立
教養教育の教育内容の点検
学生の社会性育成教育の実施

専門性の教育

教育内容・体制の整備
地域を意識した特色ある教育の実施

教育方法の改善

単位の美質化と組織的FD活動の推進

教育方法の検証

根拠資料に基づく評価と教育情報の公開

学生支援・学生支援体制の整備

学習環境の整備
学習状況を分析し、到達度に応じた指導
就職支援体制の強化、社会性育成教育の推進

入学者選抜・選抜方法の改善

学部および大学院入学志願者増加

(注)「人間性」、「社会性・国際性」の教育は、教養教育に限らず教育課程全般に適用されるものである。

教育体系の基本的考え方

学士課程

- 教養教育と専門教育により編成
- 宮崎大学の教育が目指す教育目標に応じた教育課程を編成し質の向上を図る。
- 専門教育においては教養教育と連携を保ち、学部等の専攻に係る専門の学芸を修得し、専門的職業人としての基本的技能・態度を育成する。

大学院課程

- 教育目標に応じた教育課程を編成し、高度専門職業人等を育成するため、高度な専門教育を行う。

宮崎大学の教育プロジェクト (平成23年度現在)

研究課題名等	研究種目等	期 間	学部等
国立大学法人等の教育研究基盤の確保			
生物遺伝資源教育プログラムの国際的展開	文部科学省特別経費(高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実)	H22~H26	農学部 FSRC
International GAP(国際的適正農業規範)対応の食料管理専門職業人の養成	文部科学省特別経費(高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実)	H23~H26	農学部
高度な技術と指導性を有する家畜衛生・家畜臨床獣医師育成事業	文部科学省特別経費(高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実)	H23~H25	医学部 医学部総合研究科 農学部 FSRC
小中一貫教育プログラムの開発と実践 —小中一貫教育に関する総合的研究とそれを基盤とする 新入教員養成及び現職教員研修—	文部科学省特別経費(地域貢献機能の充実)	H23~H26	教育文化学部 教育学研究科
国公立大学を通じた大学教育改革の支援 ※1			
中九州三大学病院合同専門医養成プログラム —地域医療支援と臨床研究推進の共有システム構築—	大学病院連携型高度医療人養成推進事業	H20~	医学部
自主を促す工学技術者キャリア教育	大学教育・学生支援推進事業【テーマA】	H21~H23	工学部
畜産基地を基盤とした大学間連携による家畜生産に関する実践型総合教育プログラム開発	大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム	H21~H23	農学部
実践的な人材育成のための医療サービスサイエンス教育プログラムの開発	大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム	H21~H23	医学部
文部科学省以外の事業			
ものづくり担い手育成事業	平成22年度ものづくり分野の人材育成確保事業	H23	工学部
地域医療学講座	寄附講座[宮崎県]	H22~H25	医学部
JABEE(ジャビー) ※2			
工学部 土木環境工学科	土木及び土木関連分野	H16~	工学部
工学部 物質環境化学科	化学および化学関連分野(応用化学コース)	H17~	工学部
工学部 電気電子工学科	電気・電子・情報通信およびその関連分野	H17~	工学部
工学部 機械システム工学科	機械および機械関連分野	H18~	工学部
工学部 情報システム工学科	情報および情報関連分野	H18~	工学部
農学部 応用生物科学科	農学一般関連分野	H21~	農学部
工学部 材料物理工学科	物理・応用物理学関連分野	H22~	工学部

※1:大学における学生教育の質の向上を目指す特色ある優れた取組をサポートする文部科学省のプログラム。 ※2:日本技術者教育認定機構、これに認定された教育プログラムは、教育活動の品質が国際的レベルにあることや、技術者として活動するために必要な最低限度の知識や能力の養成に成功していると評価されたことになります。

※FSRC…フロンティア科学実験総合センター

宮崎大学の研究の特色

宮崎大学の研究の基本理念は、「世界を視野に 地域から始めよう」のスローガンのもと、学際的な生命科学の創造と地球環境保全のための科学を志向することです。研究戦略に沿って、生命科学・環境科学・エネルギー科学などの重点領域において国際的に通用する先端的・特色ある研究を推進しています。さらに、基礎・基盤的研究、萌芽的研究を継続的に推進しつつ、産学官連携研究にも取り組んでいます。また、女性研究者および若手研究者も積極的に支援しています。

科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成事業」の「逆風を順風に 宮崎大学女性研究者支援モデル」は昨年度終了しました。その成果を踏まえ、男女の別なく能力を発揮できる環境づくりを推進するため、本年度中に、「男女共同参画推進室（仮称）」を設置する予定です。

科学技術振興調整費「若手研究者の自立的研究環境整備促進事業」の「宮崎大学型若手研究リーダー育成モデル」は3年目を迎え、国際公募で採用した10名のIRO特任助教は本学の特色ある異分野融合型研究を推進しています。本年度は中間評価が実施されま。なお、外部評価委員会で本事業は「所期の計画を超えた取組が行われている」という高い総合評価を受けました。

すでに終了した21世紀COEプログラム「生理活性ペプチドと生体システムの制御」やJST地域結集型共同研究事業「ウイルス発がんの機序解明と予防・治療法の創出・食の機能的活用のための基盤技術の開発」などで得られた数多くの優れた成果は生理活性ペプチドに関する科研費・基盤研究

(S)や臨床応用研究に関する厚生労働省科研費など多数の大型競争的資金の獲得に繋がっています。

我が国で最初であり唯一の医学獣医学総合研究科（博士課程）は、医学と獣医学の知を結集し連携・融合して、教育・研究の更なる充実と深化を図ることを目的としています。概算要求事項の「医学獣医学融合による統合動物実験プロジェクト」により、ヒト・動物疾病に対する予防・診断・治療法の開発と人材育成を図っています。本研究科は農学工学総合研究科（博士後期課程）と共に、本学の異分野融合研究の担い手です。

地域の中核大学として産学官連携事業や地域資源活用事業なども積極的に推進しています。関連企業と共同で設置した日本最大規模の集光型発電装置の他に、多種類の太陽光発電設備を整備して、同一条件下での発電効率等の研究を実施しています。さらに、概算要求事項の「農林畜産廃棄物利用による地域資源循環システムの構築」、「高機能触媒反応によるバイオマス資源のバイオ燃料及びバイオ有価物への変換プロセスの開発」、環境省補助金「バイオマス廃棄物を利用した希少元素含有スクラップからのレアメタルの回収および適正処理技術の開発」などの研究を推進しています。

社会貢献的研究として、概算要求事項の「宮崎県独自の周産期医療ネットワークを基盤とする多面的研究体制の構築と発達期脳障害の病態解明の推進」、「スポーツ外傷、傷害の病態解明」の研究を実施し、宮崎県が我が国でも低いレベルの周産期死亡率を達成・維持していることに貢献し、プロスポーツキャンプのメッカである宮崎県のス

ポーツメディカルサポートシステムの構築に寄与しています。また、地域医療再生計画に基づく寄附講座「地域医療学講座」を活用して、地域医療に特化した教育・研究を行い、本県の地域医療に貢献しています。

国際連携研究として、JICA草の根事業「インドUP州における地下水砒素汚染の総合的対策」の後継事業として、「行政主導化を目指したインドUP州における砒素汚染対策実施事業」がスタートしています。また、産学連携センターの寄附研究部門「アジア地下水砒素汚染対策部門」に代わって、国際連携センターに設置された寄附講座「地盤環境保全研究部門」が国際貢献に寄与しています。いずれも国内外で高い評価を受けています。

平成22年度、日本学術振興会の「頭脳循環を活性化する若手研究者海外派遣プログラム」に2つの事業が採択され、若手研究者の人材育成と国際共同研究の推進に取り組んでいます。さらに、継続中の多数の大型研究プロジェクトの他に、平成23年度の新規の概算要求事項として、「宮崎県全体をフィールドとする、がんコホート研究」、「完全非真空プロセスによる低コスト高効率薄膜化合物半導体太陽電池の開発」の2つの新たなプロジェクトを開始しています。

宮崎大学の研究戦略

1. 研究戦略の目標

宮崎大学は、「世界を視野に 地域から始めよう」というスローガンのもと、変動する時代並びに多様な社会の要請に応え、人間性・社会性・国際性を備えた専門職業人を養成し、有為の人材を社会に送り出すとともに、国際的に通用する研究活動を積極的にを行い、その成果を大学の教育に反映するとともに、地域をはじめ広く社会の発展に貢献する。

さらに人類の福祉と繁栄に資する学際的な生命科学を創造するとともに、生命を育ててきた地球環境の保全のための科学を志向し、諸学の連携・融合による特色ある研究を通して、国際的に通用する研究活動を積極的に行い、地域から世界に発信できる高度な学術研究を推進する。

〈重点領域〉

宮崎大学では、次の3領域を重点領域とし全学的に研究を推進する。

- ◎生命科学
- ◎環境科学
- ◎エネルギー科学

2. 目標を達成するための研究戦略

〈重点領域〉

- ◎生命科学
- ◎環境科学
- ◎エネルギー科学

〈推進方策〉

- ①学部の垣根を越えて設置された大学院などの研究組織を基盤とし、研究戦略に位置付ける重点領域の特色ある研究を全学的に推進する。
- ②基礎・基盤研究、萌芽的研究を推進する。
- ③若手研究者・女性研究者を育成し、その研究を支援する。
- ④各学部等における特色ある研究を一層推進する。
- ⑤共同利用施設・設備等の充実などにより、研究環境の整備を推進する。
- ⑥研究成果を地域・国内・世界へ積極的に発信する。

3. 本学研究の特色

宮崎大学は、「生命科学に特色を持つ大学の創造」、「生命を育ててきた地球環境の保全」の理念のもと、「世界を視野に 地域から始めよう」のスローガンを掲げ、戦略的に研究を推進・展開している。本学では各学部等の基盤的研究組織において、基礎・基盤研究、萌芽的研究の推進を継続的に図りながら、「生命科学」、「環境科学」及び「エネルギー科学」を重点研究領域に位置付け研究を推進している。また、新たに創設した大学院研究科（博士課程）である農学工学総合研究科及び医学獣医学総合研究科などにより研究基盤の一層の強化を図り、学部・研究科の垣根を越えた研究を推進し、異分野融合による研究成果を創出するとともに、各学部等の特色ある研究を推進している。さらに若手・女性研究者の育成や研究を推進している。これらの取り組みを通して、国際競争力を高め新たなイノベーションを創出し、より一層研究の高度化を図ることを目指している。

宮崎大学の大型研究プロジェクト (平成23年度現在)

研究課題名等	研究種目	研究期間	学部等
若手研究者支援			
・宮崎大学型若手研究リーダー育成モデル ・超分子性ペプチド複合体の自発的生成による生理活性物質の水溶化とバイオアベリリティの強化 ・シンチレーション法を利用した地目混在農地の熱環境評価に関する研究 ・複合微生物系構築ならびに微生物間相互作用に基づいた担子菌機能の最大化	文部科学省科学技術人材育成費補助金(若手研究者の自立的な研究環境整備促進) 先端研究助成基金助成金(最先端・次世代研究支援プログラム) 文部科学省科学研究費補助金若手研究(A) 文部科学省科学研究費補助金若手研究(A)	H21~H25 H22~H25 H22~H24 H23~H26	全学 工学部 農学部 農学部
生理活性物質の探索			
・新規ペプチドを用いた畜産・獣医領域におけるトランスレーショナルリサーチ ・動物の摂食・代謝・運動に関わる恒常性調節機構と調節物質 ・肥満におけるエネルギー代謝調節ペプチドの病態生理学的意義の解析	文部科学省科学研究費補助金基盤研究(S) 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構(イノベーション創出基盤的研究推進事業) 文部科学省科学研究費補助金(新学術領域研究 研究領域提案型)	H19~H23 H20~H24 H22~H26	農学部 農学部, FSRC 医学部
臨床開発研究			
・宮崎県全体をフィールドとする、がんコホート研究 ・宮崎県独自の周産期医療ネットワークを基盤とする多面的研究体制の構築と発達期脳障害の病態解明の推進 ・スポーツ外傷、傷害の病態解明 ー スポーツメディカルサポートシステムの構築ー	文部科学省特別経費(大学の特性を生かした多様な学術研究機能の充実) 文部科学省特別経費(大学の特性を活かした多様な学術研究機能の充実) 文部科学省特別経費(地域貢献機能の充実)	H23~H27 H21~H25 H19~H23	医学部 医学部, FSRC 医学部, 工学部, 教育文化学部
・アドレノメデュリン(AM)の炎症性腸疾患治療薬としての臨床応用 ・尿中ナノベジクルを利用した新規非侵襲的腎臓病迅速診断法の開発研究 ・癌医療におけるグレリンの包括的QOL改善療法の開発研究 ・胎児期由来の器質的異常や高次脳機能障害の病態解明に向けた国際共同プロジェクト	厚生労働省科学研究費補助金 科学技術振興機構地域イノベーション創出総合支援事業 厚生労働省科学研究費補助金 日本学術振興会(脳循環域を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム)	H21~H23 H21~H23 H22~H25 H22~H24	医学部 農学部 医学部 医学部附属病院
人獣共通感染症			
・医学獣医学融合による統合動物実験研究プロジェクト ー 動物実験の有効活用を核とした基礎・橋渡し・臨床研究のスパイラル展開によるヒト・動物疾患に対する予防・診断・治療法の開発と人材育成ー ・人獣共通感染症および越境感染症制圧のための研究・人材育成ネットワークの構築	文部科学省特別経費(大学の特性を活かした多様な学術研究機能の充実) 日本学術振興会(脳循環域を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム)	H22~H26 H22~H24	医学獣医学総合研究科, 医学部, 農学部, FSRC 医学獣医学総合研究科, 医学部
生物遺伝資源			
・ナショナルバイオリソースプロジェクト(ミヤコグサ・ダイズ遺伝資源の収集・保存・提供) ・家庭用果樹苗木生産にも対応したカキわい性木挿し木苗木育成技術の開発	研究開発施設共用等促進費補助金 農林水産省(平成21年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業)	H15~H23 H21~H23	FSRC 農学部
バイオマス/資源再利用			
・高機能触媒反応によるバイオマス資源のバイオ燃料及びバイオ有機物への変換プロセスの開発 ・農林畜産廃棄物利用による地域資源循環システムの構築 ・西南暖地の果菜類における農業に有用な生物多様性の管理技術の確立 ・バイオマス廃棄物を利用した希少元素含有スラックからのレアメタルの回収および適正処理技術の開発 ・集光動作特性解析シミュレーターの開発 ・豚糞堆肥の炭化による低コストなリン・カリウム回収技術と環境保全型農業資材の開発 ・超小型水力エネルギー回収装置を用いた農業及び水産施設等の省エネルギー化現場実証実験 ・完全非真空プロセスによる低コスト高効率薄膜化合物半導体太陽電池の開発	文部科学省特別経費(大学の特性を活かした多様な学術研究機能の充実) 文部科学省特別経費(地域貢献機能の充実) 農林水産省(平成21年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業) 環境省(平成21年度循環社会形成推進科学研究費補助金) 新エネルギー・産業技術総合開発機構(新エネルギー技術開発) 農林水産省(平成22年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業) 農林水産省(平成22年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業) 文部科学省特別経費(大学の特性を活かした多様な学術研究機能の充実)	H21~H25 H18~H23 H21~H23 H21~H23 H20~H23 H22~H24 H22~H23 H23~H26	農学工学総合研究科 農学部, 工学部 農学部 工学部 工学部 工学部 農学部, 工学部 工学部
国際連携			
・行政主導化をめざしたインド・ウッターール・プラデシュ州における総合的砒素汚染対策実施事業 ・地盤環境保全研究部門	JICA草の根技術協力事業、アジア地下水砒素汚染対策寄付研究部門 寄附講座(地盤環境保全コンソーシアム)	H22~H24 H22~H24	工学部, 医学部 国際連携センター

※FSRC・・・フロンティア科学実験総合センター

教育文化学部

(入学定員230人)

教育文化学部では、日本の将来を担う子どもたちを教育する教員を養成し、また、日本・アジア・欧米の言語や文化、法律・政治・経済・福祉などの社会のシステムに関する教育と研究を行っています。したがって、各課程の教育を受けるにふさわしい基礎学力を備えるとともに、向学心、職業意識、社会への関心の高い人を受け入れることを目指して、多様な入学者選抜を行います。

● 学校教育課程 (入学定員150人)

- 初等教育コース 75人
- 中学校教育コース 60人
- 特別支援教育コース 15人

学校教育課程は、学校現場に関わる諸問題や児童・生徒の心身の諸問題について、また学校で何をどのように教えるか等について、専門的に学びます。とくに、今日の多様化した子どもたちに愛情と情熱をもって接し、子どもの個性をより良い方向に伸ばすことのできる、柔軟な思考と豊かな感性、そして広い教養を備えた質の高い教員の養成を目指しています。

そのため本課程は、子どもの発達段階を見通した広い視野から、初等教育(11専攻)、中学校教育(10専攻)、特別支援教育の3コースに分かれて、それぞれを重点的に学べるようにカリキュラムが組まれています。

専攻やコース独自の科目とともに、一般に小学校や中学校、特別支援学校等の教員になるために必要な科目、つまり教職科目を学習します。教職科目には介護等体験実習、教育実習が含まれています。



● 人間社会課程 (入学定員80人)

- 言語文化コース 15人
- 社会システムコース 65人

現在の社会は、グローバル化と情報化の進展という大きな変動の中にあります。人間社会課程は人文科学、社会科学の諸分野の学習を通して、堅実な学問的基礎力をつけながら、人間・社会・文化についての幅広い教養と国際的視野を持ち、併せて現代社会の抱える諸課題に対する実践的解決能力を持った人材の養成を目指します。そのために本課程では、「欧米思想」(哲学、思想の認識を深める科目)、「国際関係論」(現実世界の国際関係を考察)、「実践的地域マネジメント論」(社会の現場で具体的に取組まれている諸課題を実践者から直接学ぶ科目)の3科目を課程の必修科目に設定しています。その上で言語や文化という人文科学を中心に学ぶ言語文化コースと、社会科学分野を中心に社会を対象とする学問分野を学ぶ社会システムコースの2つのコースに分かれて学習し、それぞれの専門性を深めます。



● 附属教育実践総合センター

「教育実践研究教育部門」では「学ぶ力」「生きる力」を高めるための学習カリキュラム及び指導法の開発、「教育情報科学研究部門」では情報コミュニケーション技術(ICT)活用による教師の専門的力量向上や新たな学習・教育環境の構築、「教育臨床研究教育部門」では学校不応等、子どもが抱える様々な問題に対応できる力量をもった学生、現職教員の養成に努めています。





「知」を磨き、「学」を伝える。知識豊かな人材を育てる。

● 附属学校園

附属幼稚園

昭和42年に開設されました。広々とした園庭には、数十年を経過した銀杏や楠等が大きな枝を広げ、四季折々の豊かな自然環境を日々の保育に生かしています。「生き生きと活動できる子どもを育てる」を教育目標とし、子どもの自発的な活動を重視しながら、人とのかかわりを大切にされた保育に努めています。



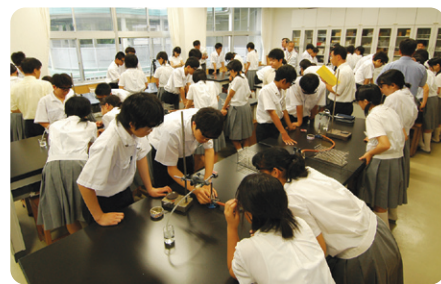
附属小学校

明治26年4月、宮崎県尋常師範学校附属小学校として設立されました。「ともだちいっぱい、あせいっぱい、まなびいっぱい」を学校目標に掲げ、何事にも真剣勝負で取り組んでいます。一人一人の個性を大事にしながら、社会の変化に自ら対応できる豊かな心をもった子どもを育成します。



附属中学校

昭和22年、宮崎師範学校の附属中学校として開設された伝統のある学校です。「気品を保ち、社会の変化に主体的に対応できる個性豊かな生徒の育成」を学校の目標とし、「①自発的に学び、真理を探究しよう ②勤労を愛し、お互いに協力しよう ③気品を保ち、健康を増進しよう」を細目として掲げ、活力ある学校づくりを進めています。



医学部

〈入学定員170人〉

医学部は、昭和49年に設立された宮崎医科大学を前身とし、平成15年10月に宮崎大学と統合し、宮崎大学医学部となりました。

医学部は、「地域における医学・医療の中心的な役割を果たすと同時に、進歩した医学・看護学を修得せしめ、人命尊重を第一義とし、医の倫理に徹した人格高潔な医師、医学研究者、看護職者及び看護学研究者を育成し、国内外の医学及び看護学の水準向上と社会福祉に貢献すること」を使命としています。

● 医学科 (入学定員110人)

医学科は、宮崎の地域医療に貢献でき、国際的にも活躍できる優れた医師の育成を目指しています。本学科の卒業生は、臨床医師、医学研究者、あるいは医学教育者として幅広い分野で活躍し、医学の発展と社会福祉の向上に貢献しています。



● 看護学科 (入学定員60人)

看護学科は、看護による健康への支援を通して、社会と地域の保健医療に貢献できる人材の育成を目指しています。本学科の卒業生は、豊かな人間性を有した看護師、保健師、または助産師として、人々の健康と生活への援助を実践し、看護の質の向上と看護学の発展並びに社会の福祉に貢献しています。





～地域から世界へ～人間性豊かな医療人の育成。

● 医学部附属病院

宮崎大学医学部附属病院は、昭和52年に開設された地上7階の建物に、総病床数612を有する宮崎県における中核的医療機関です。

診療のみではなく、在学生の臨床教育の場でもあり、卒後2年間の研修医としての初期臨床研修、それに続くレジデント・医員としての診療や研究並びに開業医や勤務医の生涯学習のための研修の場でもあります。

平成6年に特定機能病院の指定を受け、高度医療に関する研修を実施する能力・人員配置及び構造設備等を有し、高度医療技術の開発や評価も行っています。

平成20年には日本医療機能評価機構による「病院機能評価ver5.0」の認定を受け、最新の高度な医療を安全に提供しています。

また、患者さん本位の医療を達成することを目的に、各診療科及び各中央診療部門に、最新の医療機器と優秀なスタッフをそろえ、医療内容の高度化、多様化に加え、時と共に変わる疾病構造の変化にも適切に対応できる体制を整え、地域に貢献できる、より良い病院を目指しています。

さらに、平成18年11月からは、附属病院再整備に着手し平成19年12月に中央診療棟が竣工、平成22年2月に新外来診療棟が竣工し、5月から新外来診療棟での診療を開始しています。また、平成19年12月、市内中心部に「宮崎大学医学部附属病院歯科口腔外科橋通りクリニック」を開業し、平成20年2月には「都道府県がん診療連携拠点病院」の認定を受けました。さらに、同年4月には宮崎県総合周産期母子医療センターを設置、平成21年12月にはICUを16

床に増床するなど、一層の病院機能の向上を目指しています。

● 理念

良質な医療を提供するとともに、医療人の育成と医療の発展に貢献し、患者さんに信頼される病院を目指します。

● 基本方針

1. 患者さん中心の最適な医療の実践
2. 地域の要望にこたえる医療の実践
3. 先端医療の開発と提供
4. 人間性豊かな医療人の育成
5. お互いを尊重し、チームワークのとれた職場環境の整備



工学部

(入学定員370人)

工学部は、宮崎県唯一の工学部として、"宮崎に根ざし、世界に目を向けた工学部"を目標に、今後ますます進展する高度な科学技術に挑戦し、創造することができる人材の育成につとめ、国際的にも評価される質の高い学術研究活動を進めています。さらに、地域産業の発展を推進することにより、地域社会に知的な貢献をすることにつとめています。本学部では6学科の連携協力による教育・研究分野の高度化、学際化、総合化を推し進め、21世紀の地球環境と共生できる科学技術の創造と、それを担う人間性豊かな人材の育成を目指しています。

●材料物理工学科(入学定員49人)

現代社会の急速な発展を支えているのは、現代物理学を基盤とした高度な科学技術です。本学科では、このような先端技術を支える物理的知識を基礎から理解し、社会の各方面で活躍できる人材や、新しい先端技術を切り開くことができる人材の育成を目指しています。

●物質環境化学科(入学定員68人)

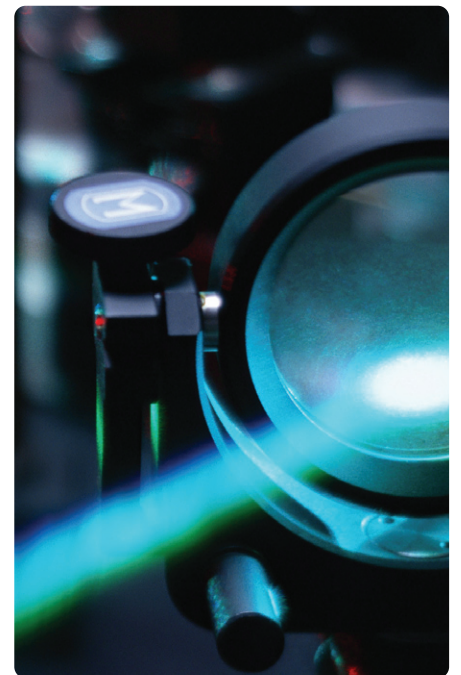
環境、エネルギー、資源、食料など21世紀に人類が直面する地球規模の諸問題を解決するため、化学物質が持つ無限の可能性を開拓すると同時に、その開発や利用において実用性だけでなく自然界や生体への影響、省エネルギーやリサイクルといった地球環境との調和を重視した物質の生産および環境保全の化学を研究しています。本学科では、JABEEの認定を受けた技術者教育プログラムに基づき、地球環境問題に対する「物質環境化学」の役割と使命を教育し、地球環境や生態系に調和した新素材の開発や物質の利用及び循環・再生技術などに係わる化学の基礎知識と応用能力を有する創造性豊かな人材の育成を目指しています。


●電気電子工学科(入学定員88人)

急速に進みつつある高度最先端技術における先駆者の養成をめざして教育・研究を行っています。このため基礎から実用性の高い応用科目までをバランスよく配置したカリキュラムとなっています。基礎科目として、数学・物理学・電磁気学・電気回路などの知識を正しく理解した上で、電子デバイス、電子回路、コンピュータアーキテクチャ、制御、レーザー、プラズマなどの専門科目を勉強し、新しい機能素子、超高密度集積回路、コンピュータシステム、制御システム、新しいエネルギーの発生や輸送についての研究へと発展させていきます。

●土木環境工学科(入学定員58人)

本学科は、自然との共生を図りつつ生活・経済・文化・安全を支える社会基盤の充実に貢献できる高度技術者(Active, Responsible, Creative and Humane Engineer)の育成を目指しています。このため、平成16年にJABEE認定された教育プログラムに基づき、技術者としての能力および土木環境分野における基礎能力を養成する教育研究を実施しています。

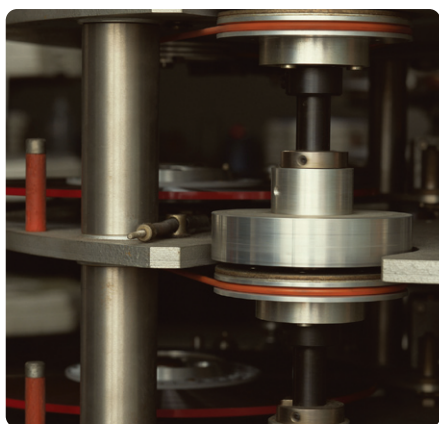




次世代技術・産業への貢献。

● **機械システム工学科**(入学定員49人)

21世紀の工業技術者には、専門知識を身につけるだけでなく、技術者としての倫理観や地球環境問題の理解など多面的な能力が要求されています。本学科は、宮崎における自然環境の恵の中で「人にやさしく」かつ「自然と調和できる」機械を生み出す素養をもった創造性豊かな技術者の育成を目的としています。そこで、人との共存を考えた機械を作るための設計に関する知識、並びに自然と調和できる機械を作るためのエネルギー問題を考える知識を身につける教育に重点をおいています。



● **情報システム工学科**(入学定員58人)

現在の情報技術の進歩には目覚ましいものがあり、産業界や経済界の急速な発展を支えています。本学科では、このような急速に進展しつつある情報化社会の各方面で幅広く活躍できる人材を育成することを教育目標とし、情報工学の高度な専門知識と現実社会での問題解決能力とを兼ね備えた人材の育成を目指しています。



農学部

〈入学定員265人〉

宮崎大学農学部は、宮崎県の農業、日本の農業そして世界の農業を通して、食料問題や環境問題を克服することを使命とし、「食料・環境・生命」をキーワードとして、国内外の農学専門分野で活躍できる人材の育成を行ってきました。しかし、平成12年の改組以来、日本の農業、あるいは大学の農学教育が担う役割は急激に変化しており、いままでの体制では、社会の多様な要請に応え得る人材の育成や、地域への貢献、地球温暖化などの新たな環境問題、食の安全確保、持続的な農産物の生産、人と動物の共通感染症克服など、様々な問題に対応しにくい状況になってきました。そこで、平成22年4月から以下のような新しい学科編成の下で教育と研究を進め、より一層の社会貢献を目指すこととなりました。

● 植物生産環境科学科 (入学定員50人)

本学科は、地球の生態系・自然環境と農業生産との調和を図るための環境保全型農業に関する教育と研究を推進しています。また、安全で高品質な農産物を効率よく生産するための基礎知識や栽培技術を身に付けるためのカリキュラムと、植物生産と生産環境に関連した専門知識を国際的視野から深く学ぶためのカリキュラムを提供し、地域・世界の農業に貢献できる人材の養成を目指しています。

● 森林緑地環境科学科 (入学定員50人)

私たちの身近に存在する森林・緑地は、人類がこの地球上で生存し続けるために必要な資源を生産する場であるとともに、快適で安全な生活を過ごすための環境を守るうえで欠くことのできない存在です。本学科では、森林や農山村・都市・海岸域を含めた緑地の機能を探求し、持続的な農林業と豊かな自然環境・安全で快適な生活環境との調和を目指した教育研究を行います。

● 応用生物科学科 (入学定員55人)

バイオサイエンス分野の最先端技術を用いた生物の機能解明と活用、食品の機能と利用法および安全性について探求しています。我々の研究対象は動物、植物、微生物、これらを活用した食品ならびにそれらを育む土壌・生態系にまで及び、最先端のバイオテクノロジーを駆使した研究を通じて、生命・食料・環境に関する幅広い知識を学ぶことができます。なお、本学科の教育カリキュラムは日本技術者認定機構(JABEE)より認定を受けています。



日本・世界の食料・環境問題の克服を目指して。

● 海洋生物環境学科 (入学定員30人)

宇宙の中で地球を他の惑星から分けた出来事は海の誕生でした。海洋は地球環境の恒常性を担い、生物・非生物の未利用資源に満ちています。海洋を含む水圏環境について深く学び、その生物の多様性と利活用を理解・修得することによって、広く人類の未来について思索し、地域・国際社会に貢献できる人材育成を目指します。

● 畜産草地科学科 (入学定員50人)

低コスト・低労力化のもとで、土・植物・家畜の物質循環系を活かして、限られた自給飼料資源をリサイクルさせながら、良質で安全な畜産物の生産に寄与できうる人材を育成するため、南九州地域の温暖な気候に適している肉用家畜の生産と、飼料生産に必要な暖地型植物の生産などを主眼とした、家畜とその生産を支える草地の両面からの教育を行います。



21世紀の地域と世界に向けて、家畜と草の両方の視点から考えることのできる人材を育てることを目指しています。

● 獣医学科 (入学定員30人)

獣医師国家試験に対応する獣医学教育を基本として、動物の疾患の予防・治療に関わる獣医師、動物と人の共通感染症の防御など人や動物の健康・福祉に貢献する獣医師を養成します。なかでも、南九州の特色である産業動物獣医師の養成に力を入れています。また、平成22年度にはわが国で初めて医学と獣医学が融合した大学院(医学獣医学総合研究科)が設置され、先進的な獣医療を実践する高度獣医師育成コースならびに国際的に活躍できる研究者育成コースへの進学が可能です。



■ 附属フィールド科学教育研究センター

4つの部門と各々に対応する4つの附属施設を有するフィールド教育・研究のための附属施設です。農業部門・木花フィールド(農場)、牧畜部門・住吉フィールド(牧場)、森林部門・田野フィールド(演習林)、海洋部門・延岡フィールド(水産実験所)から構成され、「自然との共生」および「食と環境の調和」を追求する教育研究を目指し、地域に対する社会貢献にも積極的に取り組んでいます。

■ 附属動物病院

犬や猫などの病気の動物が大学周辺のみならず県外からも診察を受けに訪れ、地域動物医療の中心となっています。また、畜産地帯に位置するため、和牛などの産業動物医療にも力を入れ、地域の診療獣医師の相談・研修の施設としての役割も担っています。

■ 附属農業博物館

農業をテーマにした博物館は、全国でも珍しく、国立大学法人の中では唯一のものです。館内には、農業、林業、畜産業、水産業などに関わる貴重な標本(動物・植物・土壌など)や、大学の最新の研究成果をわかりやすく紹介した展示があります。

■ 畜産別科

高等学校卒業またはそれ以上の学力のある者が、農学部附属する牧場(住吉フィールド)に周年宿泊して1年間修業する課程で、広く畜産業における後継者や技術指導者を養成します。本別科の所定の単位を取得した者には、家畜人工授精師の資格が与えられます。

大学院

教育学研究科

【修士課程・専門職学位課程】
（入学定員38人）

平成20年4月、教育学研究科は、教職実践開発専攻（教職大学院：専門職学位課程）と学校教育支援専攻（修士課程）の2専攻に改組しました。

■学校教育支援専攻

（修士課程）（入学定員10人）

■教育臨床心理専修

教育心理、特別支援教育、臨床心理の3コースがあり、それぞれ、①教育心理学的観点から、児童生徒の「心の教育」、「心の健康」の向上に資する教師、②障がいのある児童生徒の教育に関する専門家としての教師、③心の問題を抱える人々に対して、臨床心理学の理論に基づいて心理面接や心理査定などを行うための専門的な知識と技術を身につけた臨床心理士を養成することを目的としています。

■日本語支援教育専修

外国人児童生徒や海外からの帰国児童生

徒に対し、適切な指導助言を含む日本語教育の支援を行う能力を養うとともに、地域社会の外国人の支援や国際理解教育及び国際交流を推進する能力をもつ日本語支援教育専門家を養成することを目的としています。

■教職実践開発専攻

（教職大学院：専門職学位課程）（入学定員28人）

学校教育に関する高度の理論、実践力及び応用力を身に付けたスクールリーダーや中堅教員、力量のある新入教員を養成することを目的としています。それぞれの教員として不可欠な高度の資質形成とともに、得意分野の形成のために、学校・学級経営、生徒指導・教育相談、教育課程・学習開発及び教科領域教育実践開発の4コースを設けています。



医 科 学 看 護 学 研 究 科

【修士課程】
〈入学定員25人〉

平成22年4月、医学獣医学総合研究科の設置に伴い、医学系研究科修士課程は、医科学看護学研究科に名称変更しました。

本研究科は「人間の複雑多彩な生命現象を形態学的、生理学的並びに生化学的に研究し、自然環境、社会環境をも研究対象として社会に貢献できる高い研究能力を持つ研究者を育成すること」を使命としています。

社会のニーズに対応するため、秋期入学制度、夜間履修制度、長期履修制度、短縮修了制度、ティーチング・アシスタント制度、リサーチ・アシスタント制度等を取り入れた教育・研究を行っています。

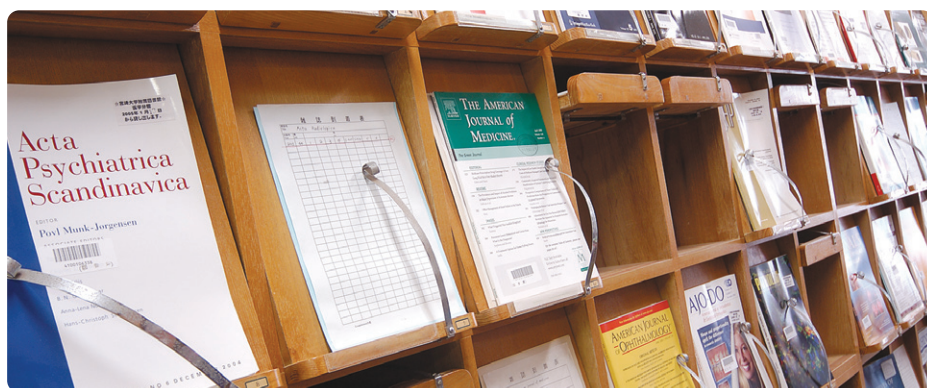
平成21年度には、修士課程看護学専攻に専門看護コース(がん看護)を設け、専門看護師(CNS)を養成します。

■医科学専攻(入学定員15人)

他の学問分野の学部卒業生を幅広く迎え入れ、広い視野に立って精深な学識を修得し、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な能力を養うことを目的とし、医学の発展と社会の福祉の向上に寄与する人材の育成を使命としています。

■看護学専攻(入学定員10人)

問題解決能力を有する看護実践者の育成と看護学の教育・研究者の素地育成を目的として、各種の医療機関、保健・福祉施設、行政、教育・研究機関などにおいて、看護実践・指導・研究・教育ができる人材の育成を使命としています。



大学院

【修士課程】
(入学定員114人)

工学研究科

工学研究科は、平成19年度、農学工学総合研究科博士後期課程の設置に伴い、それまでの「博士後期課程」を発展的に解消し、「博士前期課程」を「修士課程」に改称しました。本研究科は、宮崎地域における高度な工学的学術の教育・研究機関として、高度で専門的な科学技術者を育成するとともに、学術研究活動を推進しています。

これまで、博士後期課程からは平成22年度授与の2名を加え合計113名の博士(工学)を輩出し、修士課程からは2,367名の工学修士を送り出しました。これらの博士や修士の修了者は、21世紀の科学技術の発展を担う高度な科学技術者・研究者として、地域社会はもとより、国際社会へも一層の貢献が期待されています。

■応用物理学専攻(入学定員15人)

本専攻では、ミクロからマクロにわたる物質・エネルギー分野の基礎的研究を通して、多様な分野への応用力をもつ高度技術者の育成を目指し、量子物理、材料開発、計数物理、医学物理に関する教育と研究を行っています。未来の研究・開発の担い手として、自らを高める努力を惜しまないバランスのとれた人材育成を重視しています。

■物質環境化学専攻(入学定員21人)

本専攻では、地球環境や生態系と調和した材料化学、機能化学、物質化学および生物工学の分野に係わる物質環境化学の専門知識と柔軟な応用能力による専門的な研究開発能力を有し、創造性豊かな技術者・研究者の養成を目指しています。

■電気電子工学専攻(入学定員27人)

本専攻では、近年のマイクロエレクトロニクスとそれに伴うコンピュータの発展に伴い、電気電子工学も物理、数学などの基礎科学を取り込みながら進歩拡大しています。そこで、電気電子工学の分野を、電子材料、電子システム及び電気エネルギーの3つに分け、各分野の具体的且つ先進的な研究・教育を行っています。

■土木環境工学専攻(入学定員18人)

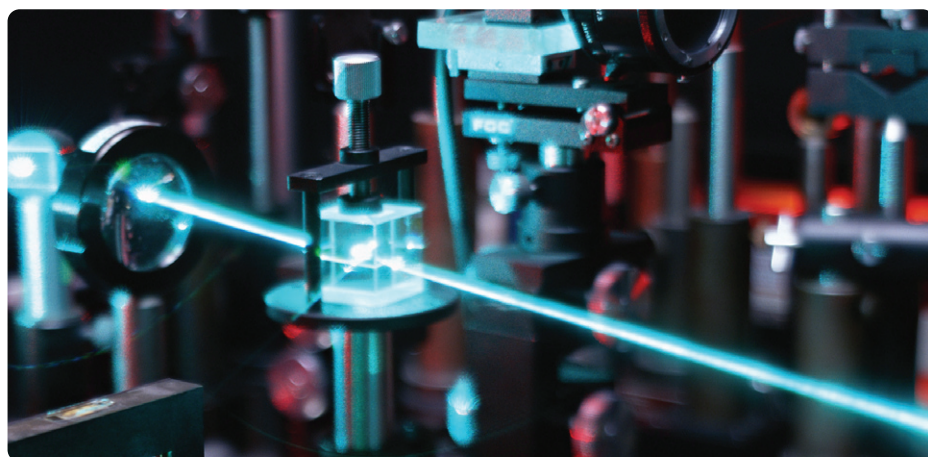
本専攻は、自然との共生を図りつつ生活・経済・文化・安全を支える社会基盤や生産基盤の充実・改善や、環境保全に貢献できる高度専門技術者の育成を目指しています。このため、建設工学、水環境や廃棄物処理工学、防災、都市計画などの高度な専門知識の修得と研究開発能力の養成に関する教育と研究を実施しています。

■機械システム工学専攻(入学定員15人)

本専攻では工業の基本である機械装置等の設計・開発の基礎とその応用およびエネルギーの有効利用に関する教育と研究を行っています。その主なテーマは、材料強度学を含む材料力学、加工学・トライボロジーを含む設計工学、内燃機関を主とした熱工学、数値解析を含めた流体工学、機械振動解析や計測・制御などです。

■情報システム工学専攻(入学定員18人)

本専攻では、進化型計算、並列処理、情報数理などの情報基礎分野、および知的情報システムや高度制御システムの設計技術あるいはネットワーク技術やソフトウェア工学などの情報応用分野に関するより高度な知識と技術の研究・教育を通じて、情報科学・計算機科学・システム工学を統合した、より深い知識と広い応用能力を合わせ持つ人材の育成を行っています。



農学研究科

【修士課程】
(入学定員68人)

農学研究科では、専門性の高い農業分野の5専攻(生物生産科学専攻、地域資源管理科学専攻、森林草地環境科学専攻、水産科学専攻、応用生物科学専攻)を備え、高度で先端的な科学技術を修得できる大学院教育を行います。すなわち陸域・水域を問わず生物生産、生物資源利用、環境保全などに積極的に取り組み、将来の食と健康を担うべき農業分野での高度専門技術者あるいは研究者の養成を目指しています。また、農林水畜産業の生物生産から生物資源の利活用までの探求を通して、地域社会から国際社会まで幅広く活躍できる人材を育成します。

さらに、生物多様性の保全とその持続的利用に対する社会的関心が高まる中、様々な遺伝資源の研究や応用に必要な専門技術に関する教育を行い、規定のカリキュラムを修得した学生には「遺伝資源キュレーター育成プログラム」の修了認定を行っています。

■生物生産科学専攻 (入学定員16人)

本専攻では、植物と動物を対象に「いかに生物生産を行うか」という農学の基本的課題の一つに焦点を当てた専門教育を行います。これからの動植物の生産は単に多収を目的とするだけではなく、生産過程の効率化と環境負荷の低減や生産物の安全性・品質の向上・安定的供給などが社会的に強く望まれています。

このような観点から植物生産および動物生産の両分野の専門教育を深化させ、また、両分野を有機的に連携した新しい生物生産システムを志向する教育研究を行います。

■地域資源管理科学専攻 (入学定員12人)

本専攻では、農林業生産の基盤となる水資源や土地資源、機械や施設構造物に関する技術資源、生産・流通を担う人や組織などの人的資源や情報資源などの総合的な管理・運用・評価に必要な知識と技術の修得を目標とした教育・研究を行います。

■森林草地環境科学専攻 (入学定員10人)

本専攻は、地球上の陸圏生態系の60%以上を占める森林、草地および乾燥地域における環境科学ならびに生態系、資源管理に関する教育・研究を行います。森林、草地および乾燥地生態系の総合的な管理(生物資源の持続的生産、保全、再生および修復)を目指すフィールド科学と、そこで生産される生物資源の開発ならびに利用方策を探究する生物材料科学とを基本に展開される応用科学を担当します。

■水産科学専攻 (入学定員10人)

本専攻は、地球上の70%以上を占める海洋・河川・池沼など水圏に関する生物科学や生態系との調和を前提とした生産技術の教育・研究を担っています。水圏環境の保全、増養殖、魚病対策、未利用資源の開発等に関し

て高度な専門的知識の習得を目指します。延岡フィールドセンターを始めとした野外での教育を重視し宮崎地域における唯一の水産科学分野のシンクタンクとして、環境保全、研究推進、産業振興ならびに後継者育成における中心的役割を果たしています。

■応用生物科学専攻 (入学定員20人)

本専攻では、動物、植物、微生物並びにそれらを利用した食品が持つ機能やそれらを育む土壌・生態系が持つ機能を生化学的、遺伝子工学的あるいは食品機能学的に解明するための教育研究を行っています。学部(応用生物科学科)において、修得した知識をベースとして、本専攻ではさらなる知識と技法を修得します。

●博士後期課程

宮崎大学大学院農学工学総合研究科

農学工学総合研究科は、農学と工学が連携・融合した教育研究領域の深化を図り、広範な知識に基づいた総合的判断力と高度な研究能力を備え、技術・知識基盤社会の形成に資する高度専門技術者の養成を目指します。修了者には博士(農学、工学、学術のいずれか)の学位が授与されます。

●博士課程

宮崎大学大学院医学獣医学総合研究科

獣医学科卒業生については、平成22年4月1日から「宮崎大学大学院医学獣医学総合研究科(博士課程)」が新たに設置されました。医学獣医学総合研究科は、医学部と獣医学科が連携した大学院で、高度獣医療を実践する臨床獣医師ならびに国際的に活躍できる研究者を目指す高次教育を行います。修了者には、博士(獣医学、医学のいずれか)の学位が授与されます。



大学院

【博士課程】
(入学定員23人)

医学獣医学総合研究科

平成22年4月、教育研究の更なる充実と深化を深めるために、医学系研究科博士課程を改組し、医学獣医学総合研究科医学獣医学専攻(3コース)が設置されました。

本研究科は、高度専門職業人としての医師、獣医師及び研究者・教育者の養成を主眼とし、医学・獣医学の分野において自立して研究活動を行うのに必要な高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とし、医学・獣医学の発展と社会の福祉の向上に寄与することを使命としています。

①高度臨床医育成コース

「高度臨床医育成コース」は、高い倫理観を有する専門性の高い診断・治療技術に裏打ちされた高度な研究マインドを持った指導的臨床医の育成を目的としています。

このコースは、臨床と研究をバランスよく経験することにより、双方の能力を兼ね備えた高度臨床医を育成するもので、各医学専門学会での専門医認定資格を視野に入れた臨床技術の修得が可能となっています。

②高度獣医師育成コース

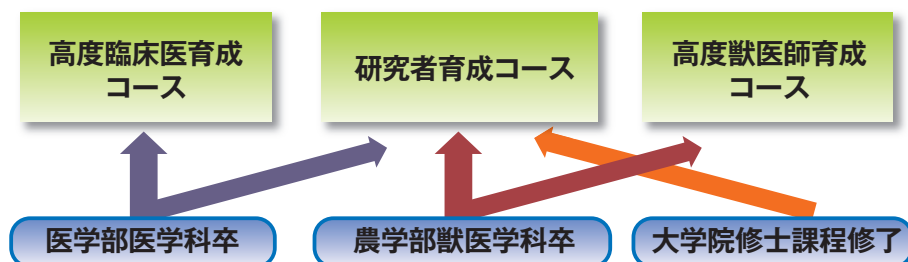
「高度獣医師育成コース」は、獣医診療において、医学の診断・検査法、治療法、手術方式を学び、その手法を履修することで、専門性の高い診断・治療技術を修得し、高度な研究マインドを有する指導的獣医師の育成を目的としています。

このコースは、獣医診療に軸足をおいた他に類を見ない特色あるコースとなっています。

③研究者育成コース

「研究者育成コース」は、国際的に活躍できる医学・獣医学の教育研究を担う人材育成を目的としています。

このコースは、本研究科における大学院教育の中核をなすものであり、学修課題を複数の科目等を通して体系的に履修するコースワークにより、将来研究者・教育者として自立するために必要な医学・獣医学の両分野にまたがる幅広い専門知識と、研究に必要な実験のデザイン等の研究手法や研究遂行能力の修得が可能となっています。



農学工学総合研究科

【博士後期課程】
〈入学定員16人〉

農学工学総合研究科は、農学と工学の学問的背景と連携協力の実績を踏まえて、農学と工学が連携・融合した教育研究領域の深化を図り、広範な知識に基づいた総合的判断力と高度な研究能力を備え、技術・知識基盤社会の形成に資する高度専門技術者の養成を目指します。このような人材養成によって、21世紀の喫緊の課題である低環境負荷・持続型生産システムの構築、持続型地域社会が必要とする社会基盤の保全、生物及び微生物の機能を活かした新規機能性食品の開発、地域バイオマス資源の有用物質への変換、ナノテクノロジーを応用した機能性材料の創生、自然共生型エネルギーの活用とその変換技術、省エネルギー化・高度情報化された生産技術の開発、高度なソフトウェアを活用した情報処理システムの構築等の課題解決に貢献します。

●資源環境科学専攻(入学定員4人)

①環境共生科学 ②持続生産科学

資源の枯渇、自然及び生活環境の悪化、食料危機などの人類が直面しつつある課題に取り組むために、資源の有効利用と資源循環による環境負荷の低減を基調とした、安全で活力ある循環型社会の構築に貢献できる高度専門技術者の養成を目的としています。



●生物機能応用科学専攻(入学定員4人)

③生命機能科学 ④水域生物科学

動植物、微生物及び水産生物資源が有する諸機能の解明と、それに基づいた知見により、本地域及び国際社会が抱える食料・エネルギー・環境問題に貢献できる高度専門技術者の養成を目的としています。

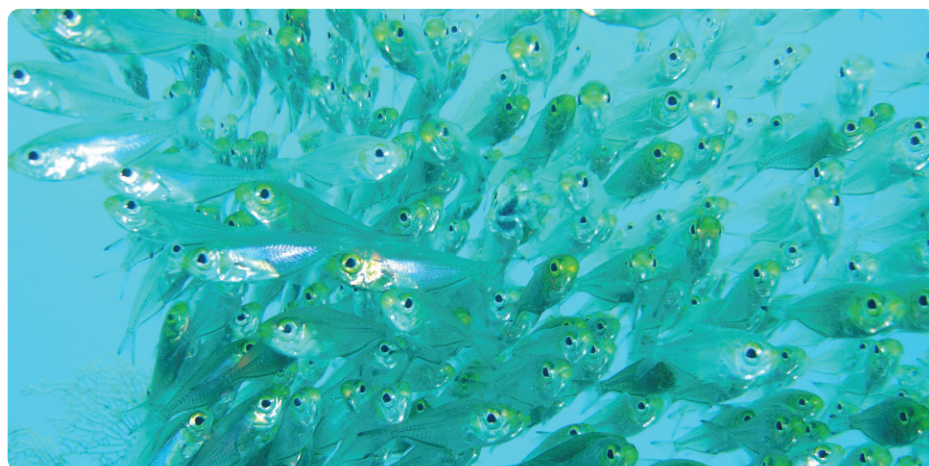
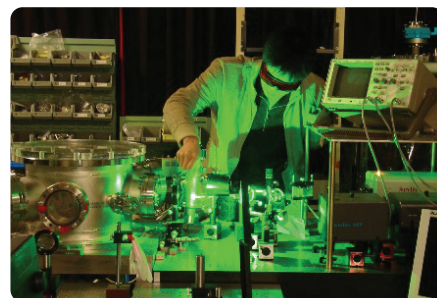


●物質・情報工学専攻(入学定員8人)

⑤新材料エネルギー工学 ⑥生産工学

⑦数理情報工学

環境調和・循環型及び高度情報化社会の課題に取り組むために、環境調和型新材料の構築、エネルギーの変換・解析、省エネルギー化・高度情報化された生産技術の開発、高度なアルゴリズムとソフトウェアを活用した情報処理技術及び数理モデルの構築に貢献できる高度専門技術者の養成を目的としています。



附属図書館

附属図書館(以下、「図書館」という)は、本館(木花キャンパス)と医学分館(清武キャンパス)から構成されており、宮崎大学における教育・研究を支援するとともに、地域に貢献する組織として活動しています。

図書館の役割は、学術情報の収集・蓄積・提供、学習環境の整備などです。このため、図書館では長年にわたって、蔵書(蔵書数:約63万冊)を蓄積するとともに、近年はインターネットを介しての情報提供体制を整え、図書館資料(図書や雑誌など)が有効に活用される環境(ハード及びソフトの面)を整えています。

このため、図書館では、学生用図書の充実、電子ジャーナル(学内限定でオンラインで利用できる学術雑誌)の整備、宮崎大学学術情報リポジトリ(学内生産の電子的研究成果物の収集・保存・発信)の拡充等に努めています。また図書館を有効に活用していただくため、ホームページの充実や文献検索講習会の開催などを実施しています。

現在、大学は社会との連携が強く求められており、そのため図書館では、地域の方へ図書館を利用していただくことを始め、県内の大学図書館、公共図書館との連携の強化を図るよう取り組んでいます。



図書館ホームページ <http://www.lib.miyazaki-u.ac.jp/>

附属図書館

●コレクション

【大正新脩大藏經 全100巻】

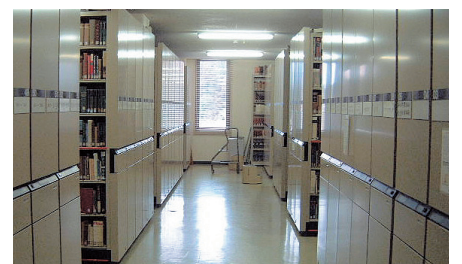
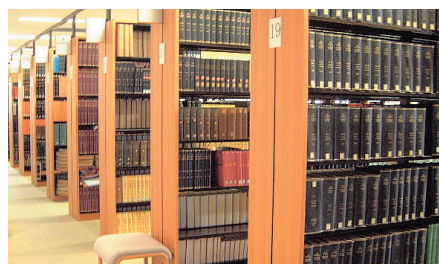
このコレクションは、膨大な数のインド仏典の漢訳を10年以上の歳月をかけて全100巻に編集したものです。梵語写本の多くが失われている現在、仏教研究者にとって漢訳仏典は非常に重要であり、特にこの大藏經はその校正の厳密さゆえに高く評価されています。

【イギリス教育史コレクション 467点】

このコレクションは、16世紀イギリスの人文主義教育思想家アスカムから20世紀に至るイギリスの教育思想(史)、教育史に関するオリジナル文献・研究書を幅広く収めています。

【アレン・ハット旧蔵 世界労働運動史コレクション 996点】

このコレクションは、「イギリス労働運動史」の著者として知られる労働運動史家アレン・ハットが所蔵していた、イギリス並びに英ソ関係を中心とした世界労働運動史の様々な文献から成り立っています。



教育研究施設

●産学・地域連携センター

産学・地域連携センターは、産学連携、地域連携、知的財産及び機器分析支援の4部門から構成されています。

「産学連携部門」は、地域・産業界からの科学技術相談に対応するとともに、大学シーズと企業ニーズをマッチさせて共同研究への展開を支援しています。

「地域連携部門」は、公開講座の運営など、大学と地域社会との架け橋として、さまざまな大学開放事業や地域連携事業を推進しています。

「知的財産部門」は、研究成果から生じた知的財産を管理し、特許等の取得や地域・産業界への還元を行っています。

「機器分析支援部門」は、高度な分析機器を多数所有しており、各種試験・分析の依頼に応えています。

このように、本学の産学・地域連携の窓口として、産業界や地域の振興に貢献しています。



●教育・学生支援センター

教育・学生支援センターは、教育企画部門と学生支援部門からなり、大学教育に関わる企画事業と学生支援事業を行っています。

教育企画部門は、共通教育、専門教育から大学院教育までの大学教育の在り方に関わる研究を背景に教育方法、教育環境の改善を推進しています。

学生支援部門は、課外活動、経済・生活支援及びキャリア支援に関する事業を通じて学生の支援を推進しています。



●フロンティア科学実験総合センター

フロンティア科学実験総合センターは、学際的な生命科学研究を行う「生命科学研究部門」と教育・研究活動を支援する「実験支援部門」の2部門で構成されています。

「生命科学研究部門」は、「生理活性物質機能解析分野」、「生理活性物質探索病態解析分野」、「生命環境科学分野」の3分野で構成され、生理活性ペプチドの探索研究やその機能解明、微生物ゲノムの解析研究等を行っています。

「実験支援部門」は、5つの分野で構成され、「生物資源分野」、「分子形態・機能解析分野」は清武キャンパス、「遺伝資源分野」、「開放系栽培研究は場安全管理分野」は木花キャンパス、「RI分野」は両キャンパスにあります。本部門ではミヤコグサなどのナショナルバイオリソースの日本における情報センターの一翼を担っている他、各分野で独創的な研究活動を行うとともに、本学の広範な教育研究活動の支援を行っています。



●国際連携センター

国際連携センターは、本学の世界への架け橋として、学術研究や教育の国際連携・協力事業の企画立案やサポートを行っています。「国際協力部門」では、学術交流のほか、本学がコンサルタント登録しているJICAと連携して、国際教育協力、保健医療、アジア地下水砒素汚染対策、農業開発などの事業を行っています。「留学生支援部門」では、多言語教育・日本語教育、国際広報、学生交流プログラム、生活指導などの事業を行っています。



情報統括機構 安全衛生保健センター

●安全衛生保健センター

安全衛生保健センターは、学生及び教職員の心身の健康管理を専門的にサポートすると共に、学内で発生する事故を予防し、安全で快適な教育・研究・職場環境を形成するための提言や指導を行うための施設です。

日常業務では、急病やけがの応急処置をはじめ、生活習慣病に対するアドバイスや心理・精神的な問題に対するカウンセリング等を行っています。

また、実験・研究中や作業中の事故を防止するための啓発活動や各種安全マニュアルの策定等も行っています。

■主な業務内容は以下のとおりです。

1. 定期及び臨時健康診断とその保健指導等
2. 健康相談及び一次救急処置
3. 心の健康保持に必要な精神医療相談
4. 学内の環境衛生等に対する助言・指導
5. 保健管理・労働安全のための調査研究
6. 健康保持増進への予防医学的啓発と学生教育の支援
7. 職場復帰のための復職支援



●情報統括機構

■情報基盤センター

情報基盤センターは、情報施策の立案・策定、点検・検証及び情報基盤、情報システム等の運用管理を行うとともに、情報利用者支援を行います。情報基盤センターは、「情報基盤部門」、「利用者支援部門」で構成され、各部門の主な業務は、以下のとおりです。

情報基盤部門

1. 情報化推進の立案・策定・実施
2. 事業計画の実施及び管理経費の執行
3. 学内情報基盤の整備、更新及び運用管理
4. 学内情報ネットワーク及び情報システムの整備、更新及び運用管理
5. 学外情報ネットワークとの連携、その利用及び支援

利用者支援部門

1. 学内情報ネットワーク及び情報システム利用者の支援
2. 情報教育の支援
3. 各種情報システムの支援
4. 情報セキュリティ
5. 最適化計画及び各種ポリシーの策定・実施



国際交流

宮崎大学は、国際交流事業として①学術交流、②学生交流、③国際協力、④地域の国際化への貢献の4つの柱を据え、地理的・歴史的な関係から、東アジア・東南アジアの大学等を中心に、活発な交流を展開しています。

国際交流

●研究者の海外派遣・受入れ

文部科学省、日本学術振興会、国際協力機構(JICA)及び各種機関の助成等により、年間約380名の研究者が海外に派遣されており、外国人研究者も積極的に受け入れています。

●国際協力

本学ではJICAやNGO等と連携しながら、アジアや中南米等の開発途上国に対して積極的な国際協力を展開しています。

●国際交流協定

全学的・戦略的な学術交流・学生交流を推進するため、37の国や地域の大学等と交流協定を締結しています。うち、26大学とは学生交流覚書(授業料等相互不徴収)を締結し、活発な学生交流を図っています。

●留学生の受入れ

15カ国から国費・私費・政府派遣の留学生110名を受け入れ、教育研究を行うと共に、生活支援、校内での交流事業等を実施し、諸外国の指導的人材の育成に努めています。

●学生の海外派遣

宮崎大学では、学生交流覚書を締結している大学に、学生を派遣しています。協定

による留学は、休学の必要がなく留学先の大学の授業料等は免除されます。また、留学先で取得した単位を宮崎大学の単位とすることができます。

●短期学生交流の実施

宮崎大学では、海外の協定校と短期学生交流を実施しています。学生が相互訪問し、ホームステイ等を通じ、お互いの文化を学び、交流を深めています。また、教養科目「異文化交流体験学習」の単位が認められています。

●海外オフィス

宮崎大学は、インドネシア・マラン市とインド・ウッタルプラデシュ州バライチ県に海外拠点を設置しています。

インドネシアでは、本学工学部の協定校であるブラウイジャヤ大学内にオフィスを設置し、本学とブラウイジャヤ大学との学術交流・学生交流を支援しています。

●地域社会の国際化への貢献

本学の外国人留学生は、県内の小中学校における各種国際交流事業や、国際交流団体が開催する国際理解事業等に参加し、地域社会の国際化へ貢献しています。

■主な学生交流覚書締結校

国名等	大学名	募集学部等	派遣学生
中国	上海交通大学	全学部	2名以内
韓国	順天大学校	全学部	3名以内
スロベニア	リュブリャナ大学	全学部	1名以内
中国(台湾)	国立政治大学	教育文化学部	2名以内
アメリカ	エヴァーグリーン州立大学	教育文化学部	2名以内
インドネシア	ブラウイジャヤ大学工学部	工学部	2名以内
タイ	プリンス・オブ・ソンクラ大学医学部	医学部	4名以内
タイ	チュラロンコン大学獣医学部	農学部	2名以内

※その他派遣が可能な大学:南京農業大学・青海大学・西北農林科技大学・中国農業大学(中国)・東呉大学外国語学院(中国(台湾))・カセサート大学・キングモンクット工科大学生物資源技術学部(タイ)・ボゴール農科大学・ハサヌディン大学(インドネシア)・嶺南大学校・全北大学校(韓国)・ハノイ農業大学(ベトナム)・フィリピン大学ロス・バニョス校・セントラルソン国立大学(フィリピン)・モンゴル国立農業大学(モンゴル)・フェノシアイレス大学農学部(アルゼンチン)・サンパウロ大学農学部レイス・デ・ケイロス校(ブラジル)



地域連携

●公開講座等の大学開放事業

宮崎大学では、公開講座、自治体等との連携による指導者養成事業、全国からの受講者が集まる「シニアカレッジ」など、大学開放事業の充実を図っています。さらに、地域連携および学生の実践的な教育の観点から、「卒業研究テーマ」を一般に公募し、寄せられた研究テーマについて本学の学生が研究し発表するプログラムも実施しています。



●遠隔教育、情報提供の推進

宮崎大学では、宮崎健康福祉ネットワーク（はにわネット）、宮崎情報ハイウェー21（MJH21）等を活用した遠隔医療、遠隔教育等を実施しているほか、学内にインターネット放送局（Myaoh.TV）を開設し、地域への情報発信を積極的に行っています。

このほか、宮崎科学技術館に「宮崎大学展示コーナー」を設置し、本学の最先端の教育・研究の成果を広く県民に発信しています。



動画や公開講座等の情報を映像で案内しています。

業務時間：火曜日～日曜日 11時～14時、
15時～18時（祝日を除く）



●高等教育コンソーシアム宮崎

宮崎大学は、県内11の高等教育機関が連携した「高等教育コンソーシアム宮崎」の基幹大学として、単位互換、インターカレッジセミナー、合同進学説明会、インターシップ事業などを行っています。

●中学・高校等との連携事業

宮崎大学では、中学・高校等との連携を一層強化するため、出前講義、体験授業、公開授業などを継続的に実施しています。また、小・中・高教員の研修も含めた新しい「科学夢チャレンジ」事業を、宮崎県教育委員会との連携により取り組んでいます。

●地域住民に対する施設等の開放

宮崎大学は、附属図書館や農学部附属農業博物館、体育施設等を地域住民に対し開放しており、ホームページからも利用案内や予定などが閲覧できるようになっています。今後も、地域住民の利用促進を図り、引き続き、施設等の開放を積極的に進めていきます。

●宮崎大学サテライト・オフィス

地域社会への情報発信の場として、また地域の人々と交流しニーズを捉えるアンテナとして、更には県内の教育研究機関（高等教育コンソーシアム宮崎）との交流・連携の場として機能することを目的に、サテライト・オフィスを宮崎市の中心部（宮崎市橘通3-3-24 MCCビル1階）に設置しています。

同オフィスでは、本学及び高等教育コンソーシアム宮崎加盟機関の広報活動をはじめ、宮崎市街地で就職活動・教育活動等を行う学生の支援、放送大学学習相談会の開催等を展開しています。また、通りに面した場所には大型モニターが設置されており、教育研究活

産学官連携

●地域との連携協定

宮崎大学では、本学の知的・人的資源を活用して地域経済の活性化、地域社会の発展、学術・文化の振興に貢献するため、関係機関と連携協力しています。



県内産業団体等と包括連携協定を締結



「みやざき産学官シンポジウム」

●科学技術相談受付及び技術支援

宮崎大学では、研究開発、技術改良等に関わる科学技術相談を受け付けています。専任の職員が相談に関する連絡調整を行い、相談の内容によって専門分野の教員が相談に応じ、技術的支援を行います。

●共同研究及び受託研究の推進

宮崎大学では、本学への「科学技術相談」と「学内の研究シーズ」とのマッチングを図り、共同研究等へのコーディネートを行うとともに、企業等における新製品・新技術の創出に関する支援を行っています。

●大学発ベンチャー企業の育成及び支援

宮崎大学では、本学との共同研究等により得られた成果を基にベンチャー企業を立ち上げた場合、一定の期間、研究室を無償で使用できるなど支援を行っています。

●企業等への学術情報の提供

宮崎大学では、研究シーズ、共同研究成果あるいは特許等をベースに、さらなる共同研究や産学官連携プロジェクトを推進するため、宮崎大学の研究を紹介するセミナーや共同研究実施企業・機関との技術・研究発表交流会等を開催しています。



「みやざきオープンセミナー」



「ラボツアー」

●知的財産に係る技術移転及び実用化の推進

宮崎大学では、本学で得られた知的財産を社会に還元するため、外部機関と連携するほか、各種イベントへの出展や各種説明会等への参加により技術的移転を図っています。



「みやざきテクノフェア」



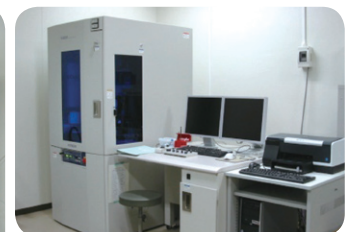
「南九州発新技術説明会」

●分析機器利用の支援

宮崎大学では、機器分析支援施設に設置された分析機器を学外の企業等技術者にも利用いただけるように支援体制を整えています。学外からの分析・測定依頼も受け入れています。



質量分析装置 (TOF-MS)



走査電子顕微鏡 (SEM)

●分析技術向上の支援

宮崎大学では、新しい分析技術の紹介と分析機器利用者による研究発表の場として、学外の企業等技術者にも参加してもらい、「分析講演会」を毎年開催しています。また、専任の職員を中心に、企業等からの分析技術相談にも適切に応じられる体制を整えています。

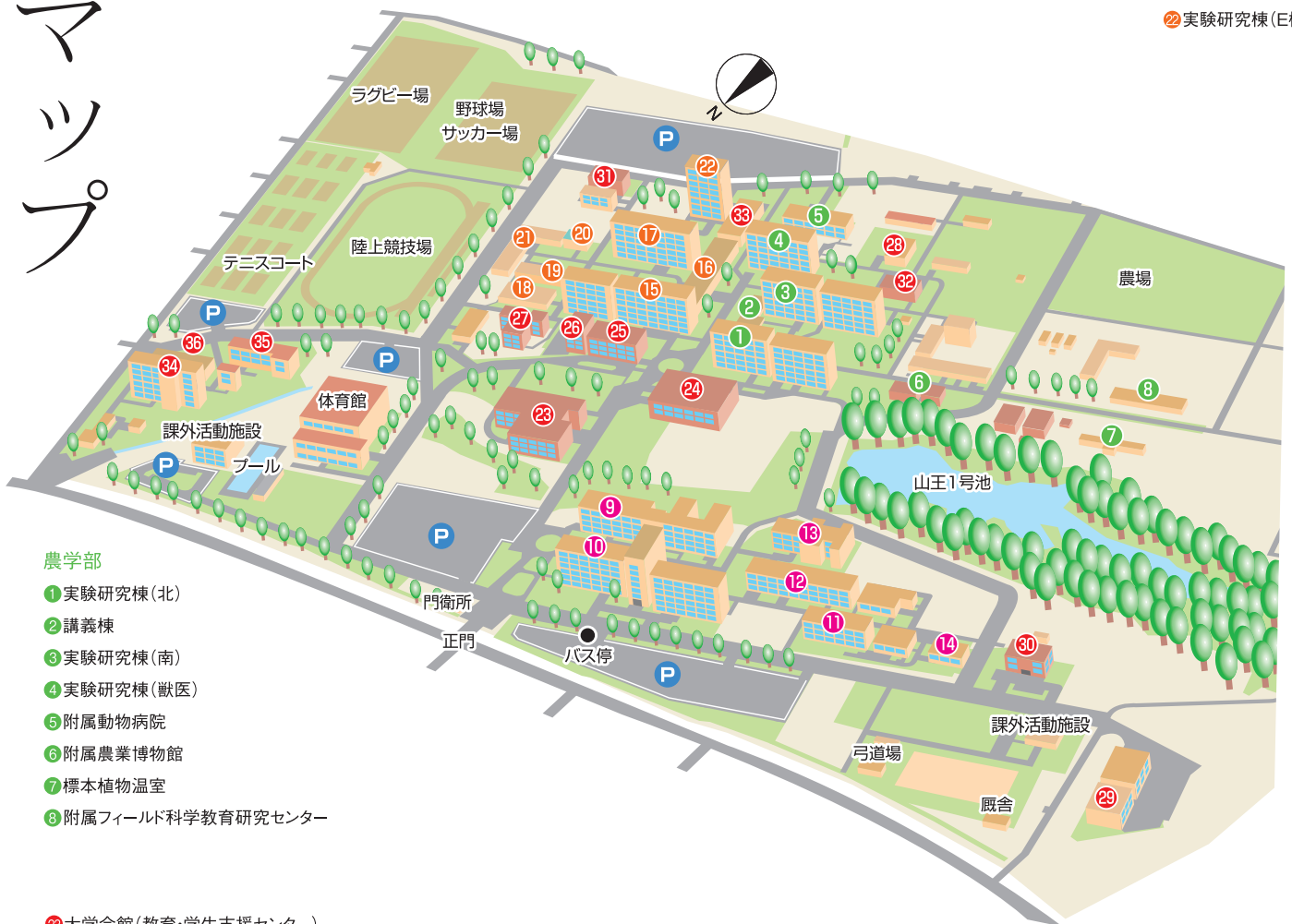
木花キャンパス Kibana Campus

教育文化学部

- ⑨ 講義棟
- ⑩ 実験研究棟
- ⑪ 美術棟
- ⑫ 技術・家庭棟
- ⑬ 音楽棟
- ⑭ 附属教育実践総合センター

工学部

- ⑮ 実験研究棟(A棟)
- ⑯ 講義棟(B棟)
- ⑰ 実験研究棟(C棟)
- ⑱ 機械実習工場
- ⑲ 機械工学実験実習棟
- ⑳ 高電圧実験棟
- ㉑ 土木工学実験実習棟
- ㉒ 実験研究棟(E棟)



農学部

- ① 実験研究棟(北)
- ② 講義棟
- ③ 実験研究棟(南)
- ④ 実験研究棟(獣医)
- ⑤ 附属動物病院
- ⑥ 附属農業博物館
- ⑦ 標本植物温室
- ⑧ 附属フィールド科学教育研究センター

- ㉓ 学生会館(教育・学生支援センター)
- ㉔ 附属図書館
- ㉕ 事務局棟
- ㉖ 安全衛生保健センター
- ㉗ 情報基盤センター
- ㉘ フロンティア科学実験総合センター(RI木花分室)
- ㉙ 産学・地域連携センター(産学連携施設)
- ㉚ 国際連携センター
- ㉛ 産学・地域連携センター(機器分析支援施設)
- ㉜ フロンティア科学実験総合センター(遺伝資源分野)
- ㉝ 総合研究棟
- ㉞ 国際交流会館
- ㉟ 女子寄宿舍
- ㊱ 男子寄宿舍

Kibana Campus

清武キャンパス Kiyotake Campus



※現在、清武キャンパスは病院再整備に伴う工事を行っており、実際の状況とは若干異なる場合がございます。

Kiyotake Campus

アクセス

宮崎までの交通アクセス

■航空機

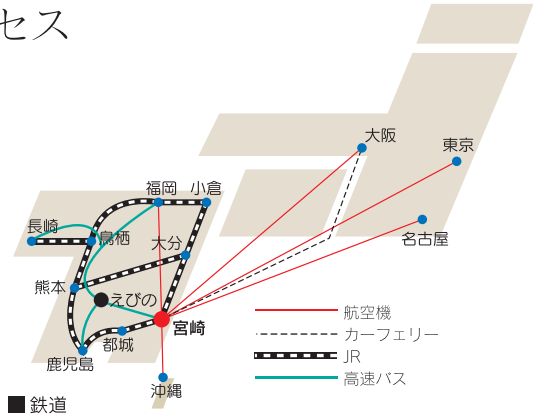
東京 — 宮崎 (105分)
 名古屋 — 宮崎 (80分)
 大阪 — 宮崎 (70分)
 福岡 — 宮崎 (40分)
 沖縄 — 宮崎 (80分)

■カーフェリー

大阪 — 宮崎 (13時間30分)

■高速バス

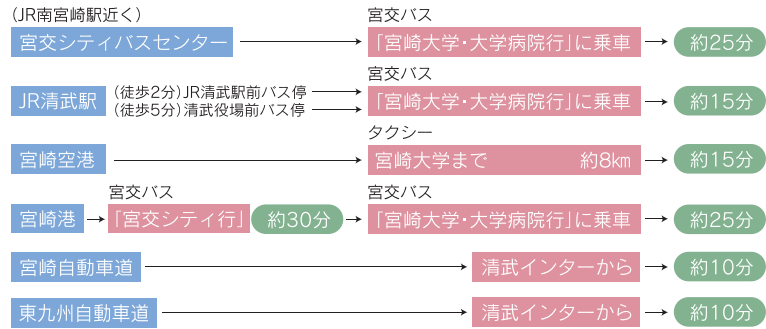
福岡 — 宮崎 (4時間)
 熊本 — 宮崎 (3時間)
 鹿児島 — 宮崎 (2時間30分)
 長崎 — 宮崎 (5時間20分)



■鉄道

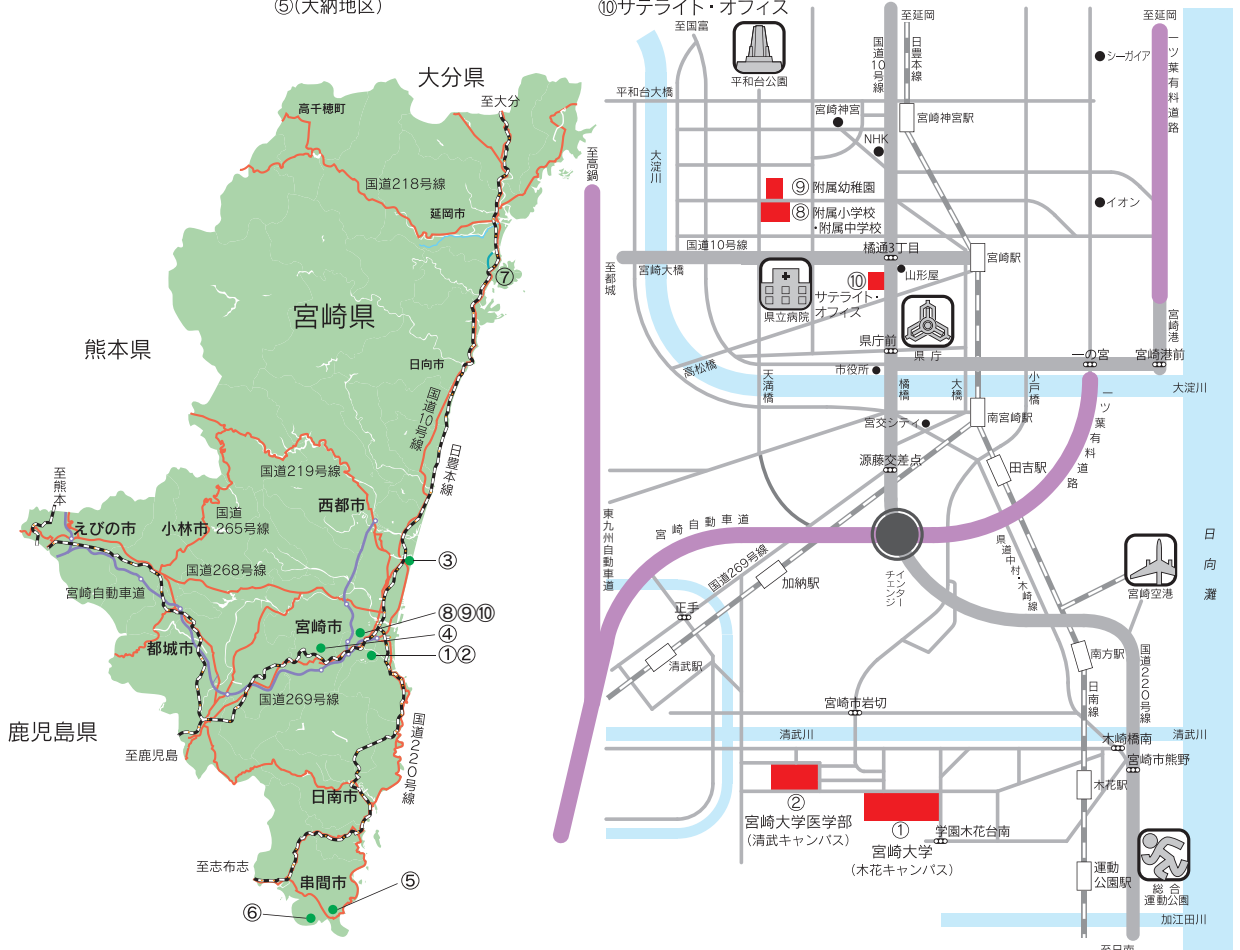
博多 — 宮崎 (3時間45分)
 小倉 — 宮崎 (4時間)
 熊本 — 宮崎 (3時間)
 大分 — 宮崎 (3時間)
 広島 — 宮崎 (5時間)
 鹿児島 — 宮崎 (2時間)

宮崎大学までの交通機関



施設位置図

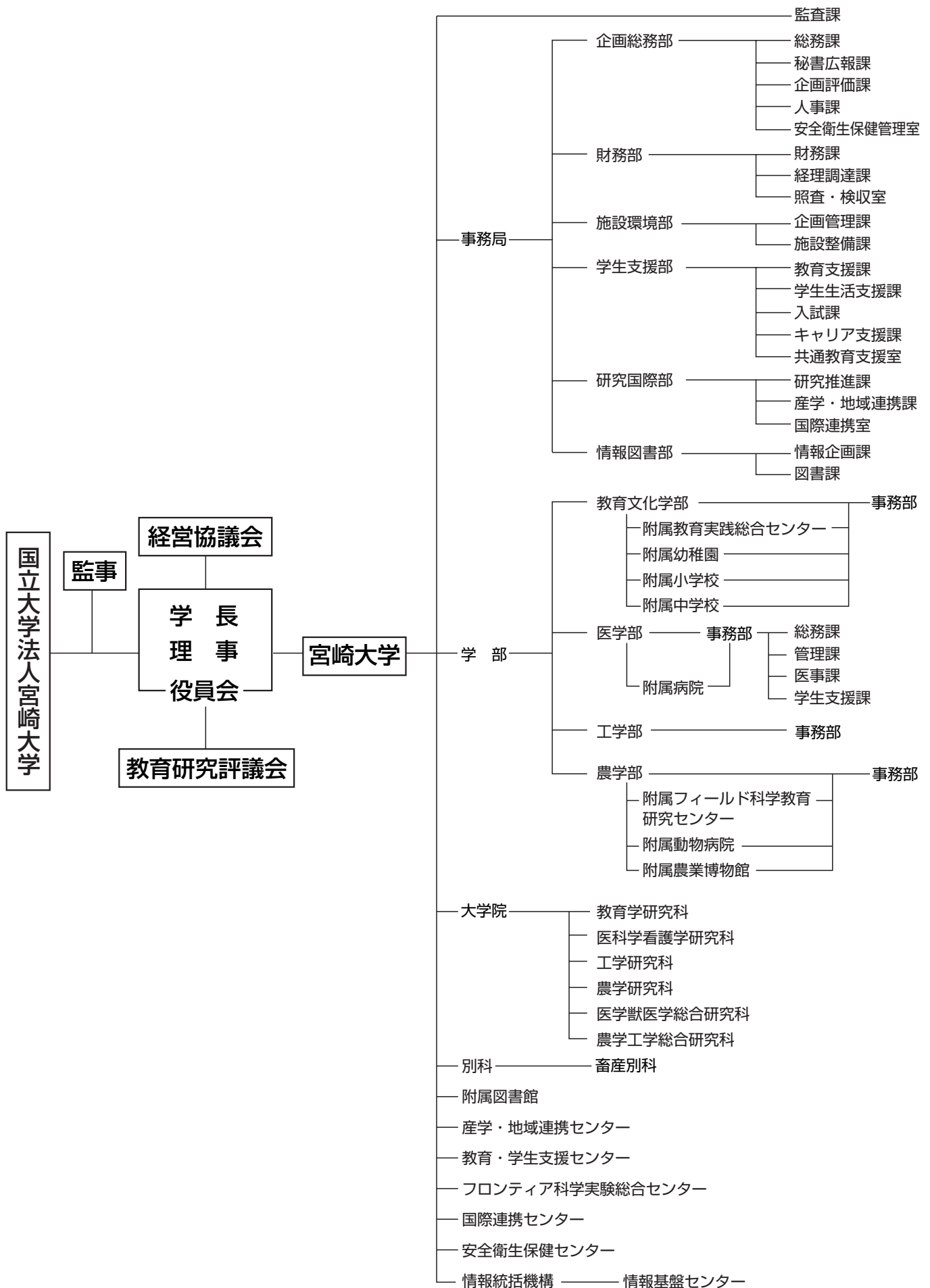
- ①宮崎大学(木花キャンパス)
- ②宮崎大学医学部(清武キャンパス)
- ③住吉フィールド(牧場)
- ④田野フィールド(演習林)
- ⑤(大納地区)
- ⑥(崎田地区)
- ⑦延岡フィールド(水産実験所)
- ⑧附属小学校・附属中学校
- ⑨附属幼稚園
- ⑩サテライト・オフィス



機構図	34
役職員	35
職員数	36
歴代学長	36
沿革	37
学部・大学院等	41
附属図書館	42
医学部附属病院	43
学生・生徒・児童及び園児数	44
平成23年度入学状況	47
卒業生・修了者数	49
博士の学位授与者数	50
平成22年度就職状況	51
奨学生状況	52
国際交流	53
連携協定機関	55
平成22年度公開講座実施状況	55
平成22年度経理状況	56
学生関係施設	58
土地・建物	59
施設所在地	60

目次（資料編）

機構図



役員

(平成23年7月1日現在)

役員会委員 : ◎印
 経営協議会委員 : ●印
 教育研究評議会評議員 : ○印

学長	菅 沼 龍 夫	◎●○	学生生活支援課長	榮 留 文 夫	
理事	副学長 (研究・企画担当)	中 山 建 男	◎●○	入試課長	中 山 泰
	副学長 (教育・学生担当)	原 田 宏	◎●○	キャリア支援課長	丸 山 秀 人
	医学部附属病院長 (病院担当)	池ノ上 克	◎●○	共通教育支援室長	吉 野 満
	事務局長 (総務担当)	松ヶ迫 和峰	◎●○	研究推進課長	三 好 学
	法務担当	日 野 直 彦	◎	産学・地域連携課長	龍 元 裕 貴
副学長	(目標・評価担当)	菊 地 正 憲	○	国際連携室長	児 玉 秀 樹
	(入試担当)	村 岡 嗣 文	○	情報企画課長(兼)	上 村 茂 樹
	(産学・地域連携担当)	堀 井 洋 一 郎	○	図書課長	池 田 光 弘
	(国際連携担当)	丸 山 眞 杉	○	教育文化学部 学部長	児 玉 修 〇
監事	高山 幹 男		附属教育実践総合センター長	添 田 佳 伸	
	木下 博 義		附属幼稚園長	竹 井 成 美	
経営協議会学外委員	(社)宮崎県医師会会長	稲 倉 正 孝	●	附属小学校長	佐 藤 正 二
	元宮崎県教育委員会教育長	岩 切 正 憲	●	附属中学校長	岩 本 俊 孝
	前長崎大学長	斎 藤 寛	●	事務課長	宮 崎 孝 行
	㈱宮崎銀行代表取締役会長	佐 藤 勇 夫	●	医学部 学部長	迫 田 隅 男 〇
	川崎重工業(株)相談役	田 崎 雅 元	●	附属病院長	池ノ上 克
	前九州女子大学学長	山 崎 信 行	●	事務部長	羽 生 守 彦
教育研究評議会評議員	教育文化学部教授	入 谷 貴 夫	○	総務課長	鳥 居 時 政
	医学部教授	浅 田 祐 士 郎	○	管理課長	原 博 文
	工学部教授	中 澤 隆 雄	○	医事課長	中 原 俊 秀
	農学部教授	村 上 昇	○	学生支援課長	五 十 嵐 三 男
共通教育部長	教育文化学部教授	境 幸 夫	○	工学部 学部長	大 坪 昌 久 〇
事務局	事務局長	松ヶ迫 和峰		事務課長	道 鬼 安 男
	企画総務部長	森 山 都 留 男		農学部 学部長	川 村 修 〇
	財務部長	中 村 俊		附属フィールド 科学教育研究センター長	福 山 喜 一
	施設環境部長	栗 木 浩		附属動物病院長	片 本 宏
	学生支援部長	徳 丸 利 秋		附属農業博物館長	那 須 哲 夫
	研究国際部長	水 井 義 武		事務課長	福 留 孝 司
	情報図書部長	上 村 茂 樹		教育学研究科 研究科長	宇 田 廣 文 〇
	監査課長	下 川 新 吾		医科学看護学研究科 研究科長(併)	迫 田 隅 男
	総務課長	原 義 彦		工学研究科 研究科長(併)	大 坪 昌 久
	秘書広報課長	横 山 寛		農学研究科 研究科長(併)	川 村 修
	企画評価課長	中 原 康 徳		医学獣医学総合研究科 研究科長(併)	迫 田 隅 男
	人事課長	米 澤 宏		農学工学総合研究科 研究科長	藪 谷 勤 〇
	安全衛生保健管理室長	後 藤 節 子		附属図書館 館長(併)	原 田 宏
	財務課長	比 江 島 孝 司		産学・地域連携 センター	センター長(併) 堀 井 洋 一 郎
	経理調達課長	齋 藤 義 弘		教育・学生支援 センター	センター長(併) 原 田 宏
	照査・検収室長事務代理	中 村 俊		フロンティア科学 実験総合センター	センター長 林 哲 也 〇
	企画管理課長	壽 福 初 美		国際連携センター	センター長(併) 丸 山 眞 杉
	施設整備課長	瀬 戸 口 俊 幸		安全衛生保健 センター	センター長 石 田 康
	教育支援課長	宮 崎 逸 男		情報基盤センター	センター長 廿 日 出 勇

職員数

(平成23年5月1日現在)

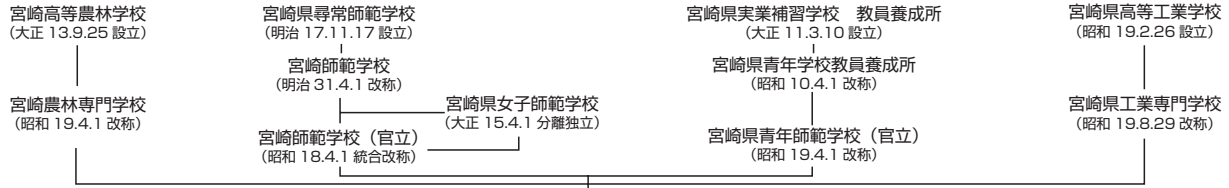
部局等	区分	学長	監事	理事	教授	准教授	講師	助教	助手	小計	附属学 校教員	事務局 等職員	合計
学長		1											1
監事			(1) 2										(1) 2
理事				(1) 5									(1) 5
事務局												158	158
教育文化学部					38	34	11			83		8	108
教育学研究科					8	9				17			
附属幼稚園											6		
附属小学校											28	3	64
附属中学校											27		
医学部					39	25	11	78	4	157		123	280
附属病院					2	7	27	77		113		385	498
工学部					38	33		21		92		30	122
農学部					42	41		13		96		13	109
附属フィールド科学教育 研究センター					3	2		1	1	7		17	24
附属動物病院					1	1				2			2
附属農業博物館						1				1			1
産学・地域連携センター						3				3			3
教育・学生支援センター						5				5			5
フロンティア科学実験総合 センター					6	2		4		12		11	23
国際連携センター							1	1		2			2
安全衛生保健センター					1	1	1			3		3	6
情報基盤センター						1		1		2			2
計		1	(1) 2	(1) 5	178	165	51	196	5	595	61	751	(2) 1,415

※定員内の職員数（ただし、監事(1)・理事(1)については、非常勤で内数）

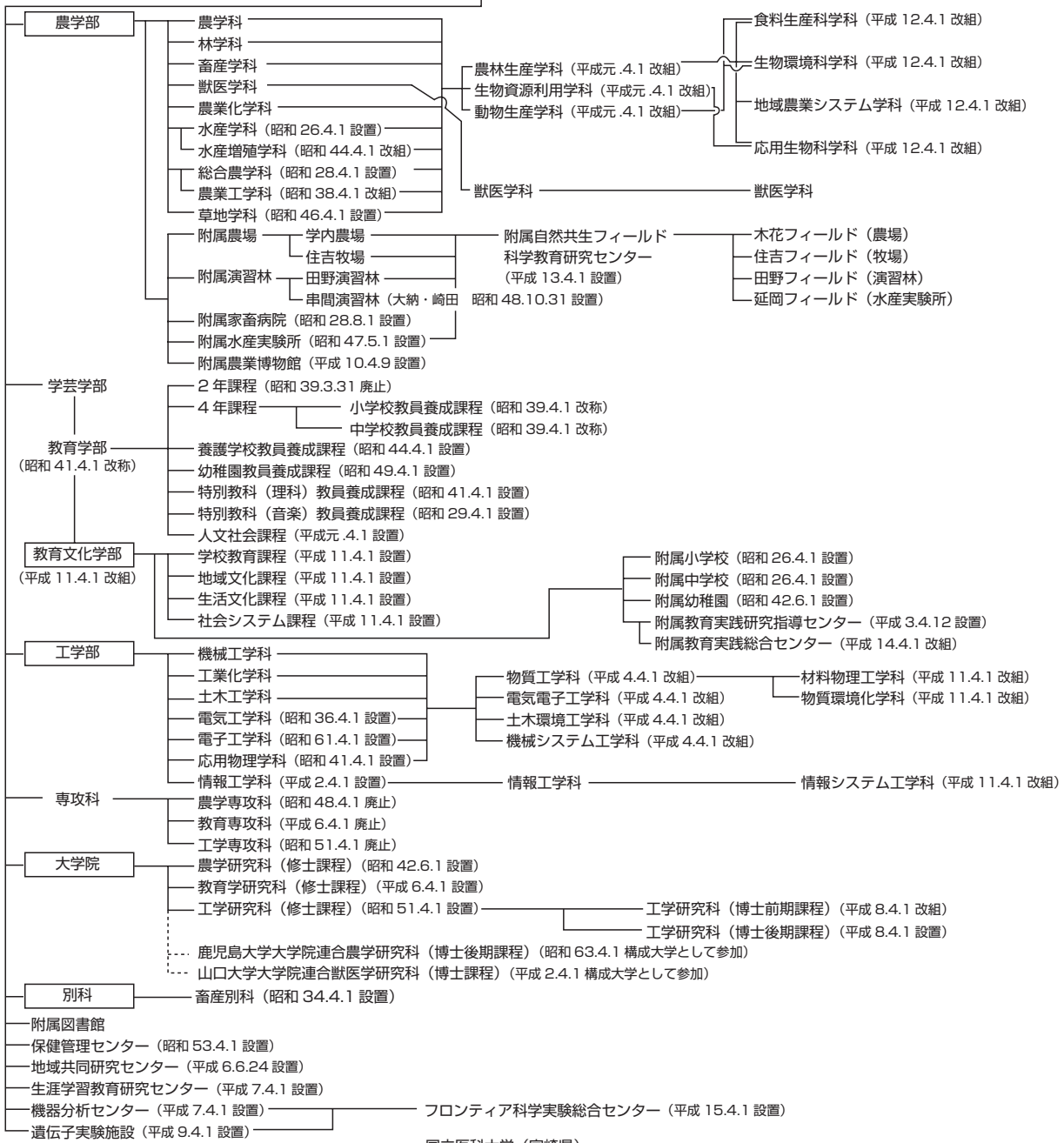
歴代学長

旧宮崎大学			旧宮崎医科大学		
氏名	在任期間	備考	氏名	在任期間	備考
高橋 隆道	S24. 5.31 ~ S27. 7.25	(事務取扱)	勝木 司馬之助	S49. 6. 7 ~ S55. 6.30	(事務取扱)
杉原 清一	S27. 7.26 ~ S28. 8. 1		玉井 達二	S55. 7. 1 ~ S61. 3.31	
栗原 一男	S28. 8. 1 ~ S32. 7.31		常俊 義三	S61. 4. 1 ~ S61. 5.31	
甲斐 三郎	S32. 8. 1 ~ S38. 7.31		岡本 直正	S61. 6. 1 ~ H 2. 3.31	
岩村 岳	S38. 8. 1 ~ S42. 7.31		木下 和夫	H 2. 4. 1 ~ H 8. 3.31	
廣田 輝雄	S42. 8. 1 ~ S46. 7.31		森満 保	H 8. 4. 1 ~ H14. 3.31	
外山 三郎	S46. 8. 1 ~ S50. 7.31		松尾 壽之	H14. 4. 1 ~ H15. 9.30	
井上 由扶	S50. 8. 1 ~ S56. 7.31				
三善 正市	S56. 8. 1 ~ S58.10.16				
木村 正雄	S58.10.16 ~ S58.11.30		(事務取扱)		
遠藤 尚	S58.12. 1 ~ H元.11.30				
池田 一	H元.12. 1 ~ H 7.11.30				
二神 光次	H 7.12. 1 ~ H13.11.30				
藤原 宏志	H13.12. 1 ~ H15. 9.30				
宮崎大学					
	住吉 昭信	H15.10.1 ~ H21.9.30			
	菅沼 龍夫	H21.10.1 ~ H25.9.30			

沿革

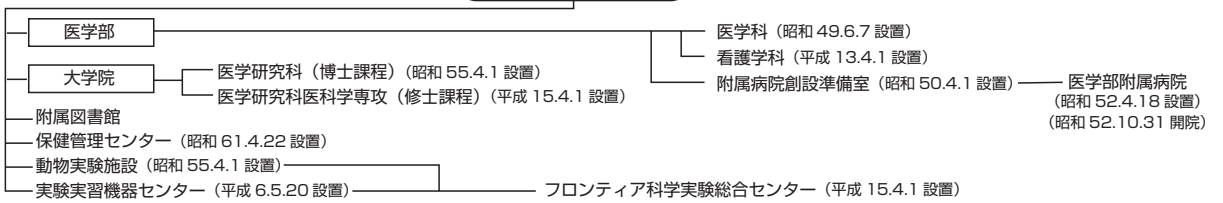


旧宮崎大学 (昭和 24.5.31 設置)

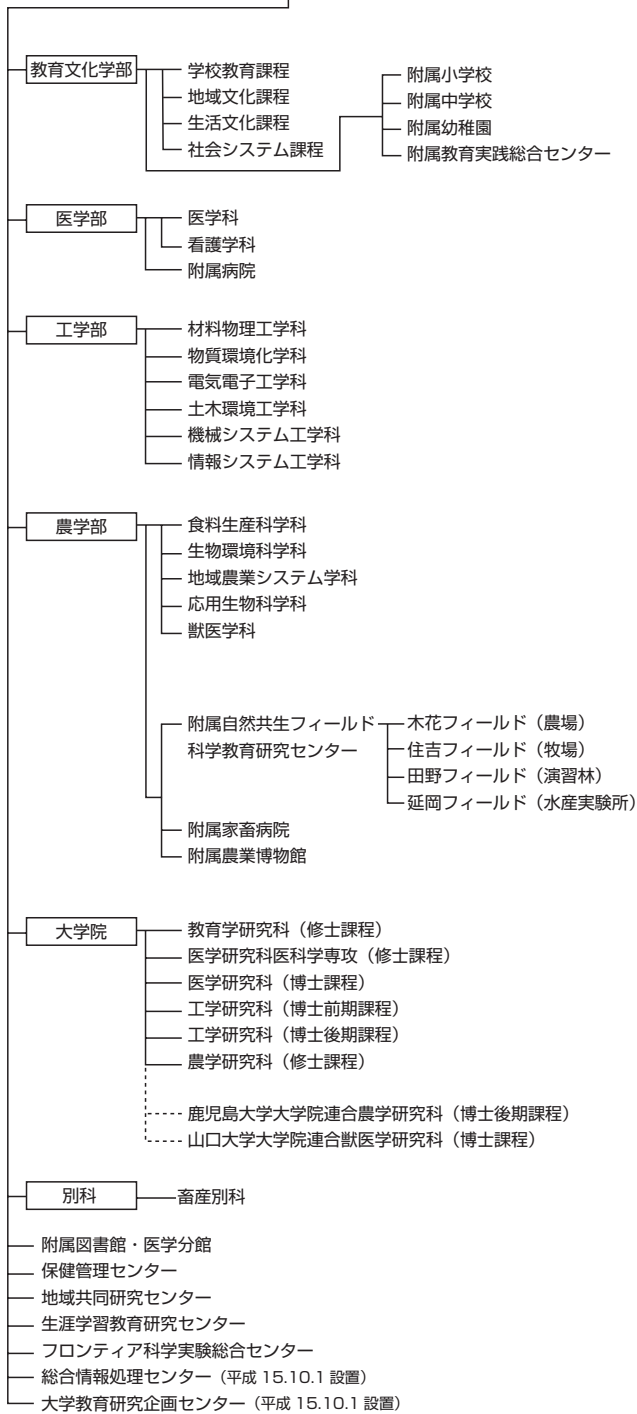


国立医科大学 (宮崎県) 創設準備室 (昭和 48.10.1 設置)

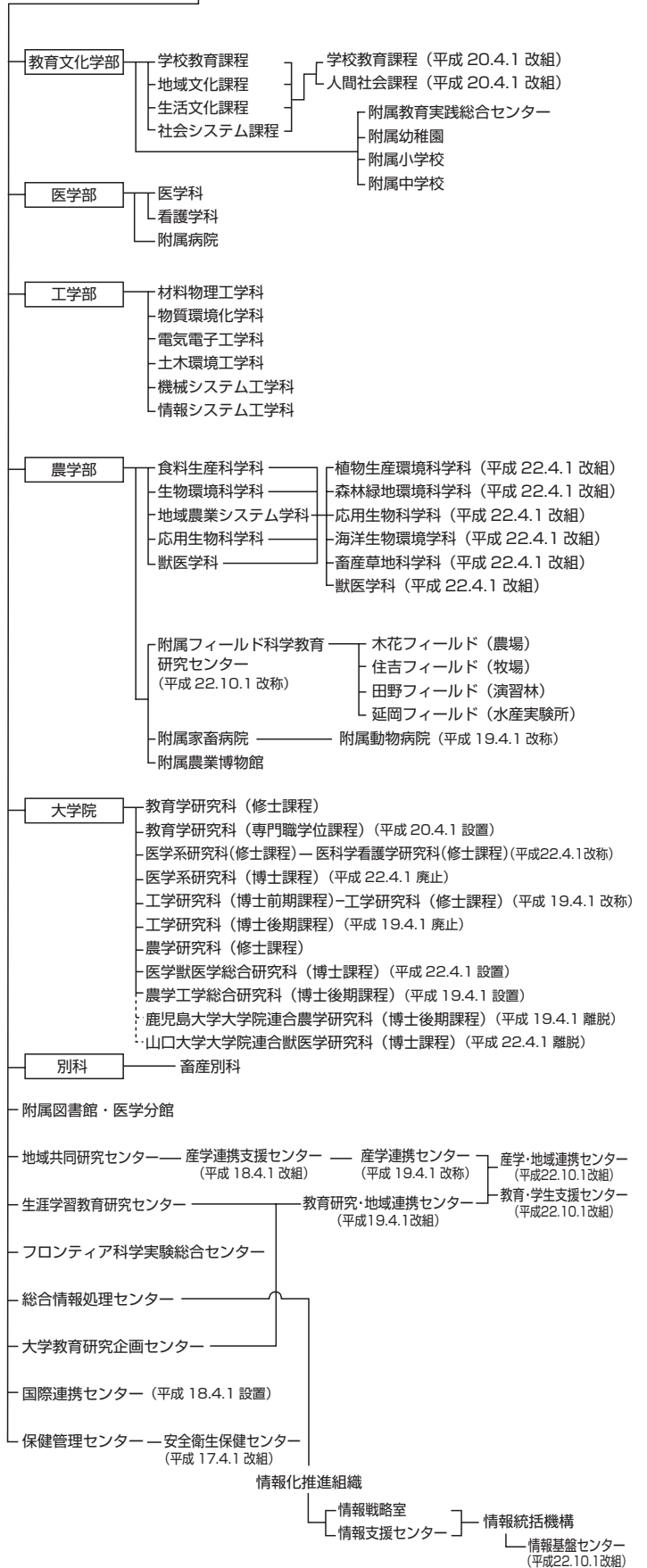
旧宮崎医科大学 (昭和 49.6.7 設置)



新宮崎大学 (平成 15.10.1 統合)



国立大学法人宮崎大学 (平成 16.4.1 法人化)



沿革 [年表]

年月日	旧宮崎大学	旧宮崎医科大学
S24. 5.31	宮崎大学（農学部、学芸学部、工学部）の設置	
7.18	第1回入学式挙行、授業開始	
S26. 4. 1	学芸学部附属小学校及び附属中学校を設置 農学部水産学科を設置	
S28. 3. 8	開学記念式典挙行	
3.10	第1回卒業式挙行	
4. 1	農学部総合農学科を設置	
8. 1	農学部附属家畜病院を設置	
S29. 4. 1	学芸学部特別教科（音楽）教員養成課程を設置	
S31. 4. 1	農学専攻科を設置し、修業期間を1年とした	
S34. 4. 1	学芸専攻科、工業専攻科及び別科（畜産別科）を設置し、それぞれ修業期間を1年とした	
S36. 4. 1	工学部電気工学科を設置	
S38. 4. 1	農学部総合農学科を改組し、農業工学科を設置	
S39.3.31	学芸学部2年課程を廃止	
4. 1	学芸学部4年課程第一部及び第二部をそれぞれ小学校教員養成課程及び中学校教員養成課程に改称	
S41. 4. 1	学芸学部を教育学部に改称 教育学部に特別教科（理科）教員養成課程、工学部に応用物理学科を設置	
S42. 6. 1	大学院農学研究科（修士課程）を設置 教育学部附属幼稚園を設置	
S44. 4. 1	農学部水産学科を改組し、水産増殖学科を設置 教育学部看護学校教員養成課程を設置	
S46. 4. 1	農学部草地学科を設置	
S47. 5. 1	農学部附属水産実験所を設置	
S48. 4. 1	農学専攻科を廃止	
10.1		宮崎大学に「国立医科大学（宮崎県）創設準備室」を設置
10.31	串間演習林（大納・崎田）を設置	
S49. 4. 1	教育学部幼稚園教員養成課程を設置	
S49. 6. 7		宮崎医科大学の設置（国立医科大学（宮崎県）創設準備室を廃止）
7. 4		第1回入学式挙行
7.29		開学記念式典挙行
S50. 4. 1		附属病院創設準備室を設置
S51. 4. 1	大学院工学研究科（修士課程）を設置 工学専攻科を廃止	
S52. 4.18		医学部附属病院を設置（附属病院創設準備室を廃止）
10.29		宮崎医科大学竣工・医学部附属病院開院記念祝典挙行
10.31		医学部附属病院開院（320床）
S53. 4. 1	保健管理センターを設置	
S54. 2. 7		医学部附属病院の病床が120床増床される（計440床）
5.31	宮崎大学創立30周年記念式典挙行	
6. 1		医学部附属病院の病床が160床増床される（計600床）
8.10	文部省、宮崎大学の移転統合を正式に認可	
12.27	農学部農業博物館を博物館相当施設として指定（文部省告示）	
S55. 3.25		第1回卒業式挙行
4. 1		大学院医学研究科（博士課程）を設置 医学部附属動物実験施設を設置
S59. 6. 7		宮崎医科大学開学10周年記念式典挙行
11.19	農学部第1次移転完了	
S60. 1.24	農学部第2次移転完了	
S61. 3.18	事務局の移転完了	
3.31	学生部及び保健管理センターの移転完了	
4. 1	工学部電子工学科を設置	
4.22		保健管理センターを設置
5.23	事務局・学生部移転記念式典挙行	
9.13	工学部及び計算機・分析両センターの移転完了	
S62. 8.31	附属図書館の移転完了	
10.31		医学部附属病院開院10周年記念式典挙行
S63. 4. 1	鹿児島大学大学院連合農学研究科（博士後期課程）が設置され、農学部が構成大学として参加	
5.25		医学部附属病院輸血部を設置
9. 7	教育学部の移転完了	
H元. 4. 1	農学部改組 教育学部人文社会課程を設置	
10. 1	計算機センターを情報処理センターに改称	
11.11	移転完了記念式典・祝賀会挙行	
H2. 4. 1	工学部情報工学科を設置 山口大学大学院連合獣医学研究科（博士課程）が設置され、農学部が構成大学として参加	

年月日	旧宮崎大学	旧宮崎医科大学
6.8		医学部附属病院救急部を設置
H3.4.12	教育学部附属教育実践研究指導センターを設置	
H4.4.1	工学部改組 地域交流センター（学内措置）を設置（後に地域共同研究センター、生涯学習教育研究センターへ改組）	
4.10		医学部附属病院集中治療部を設置
H6.4.1	大学院教育学研究科（修士課程）を設置 教育専攻科を廃止	
5.20		医学部附属実験実習機器センターを設置 医学部附属病院医療情報部を設置
6.24	地域共同研究センターを設置	
10.1		特定機能病院として承認
10.29		宮崎医科大学開学20周年記念式典挙行
H7.4.1	生涯学習教育研究センター及び機器分析センターを設置 分析センター廃止	
H8.4.1	大学院工学研究科（修士課程）を改組し、大学院工学研究科（博士前期課程）を設置 大学院工学研究科（博士後期課程）を設置	医学部附属病院周産母子センターを設置
H9.4.1	遺伝子実験施設を設置	
11.14		医学部附属病院開院20周年記念式典挙行
H10.4.1		医学部附属病院病理部を設置
4.9	農学部附属農業博物館を設置	
H11.4.1	教育学部を改組し、教育文化学部に変更 工学部改組	情報処理センターを設置
5.28	宮崎大学創立50周年記念式典挙行	
H12.4.1	農学部改組	医学部附属病院光学医療診療部を設置
H13.4.1	附属農場、附属演習林及び附属水産実験所を統合して、農学部附属自然共生フィールド科学教育研究センターを設置	医学部看護学科を設置
6.5		医学部看護学科開設記念式典挙行
12.14	総合研究棟を新築	
H14.4.1	教育文化学部附属教育実践研究指導センターを附属教育実践総合センターに改組	医学部附属病院リハビリテーション部を設置
H15.2.17		病院機能評価認定
4.1	フロンティア科学実験総合センターを設置 （機器分析センター、遺伝子実験施設、アイソトープセンターを廃止）	大学院医学研究科医科学専攻（修士課程）を設置 フロンティア科学実験総合センターを設置 （動物実験施設、実験実習機器センターを廃止）
年月日	宮崎大学	
H15.10.1	旧宮崎大学と旧宮崎医科大学が統合し、新「宮崎大学」設置 大学教育研究企画センター及び総合情報処理センターを設置 情報処理センターを廃止	
H16.3.26	サテライト・オフィスを宮崎市中心部（カリーノ宮崎8階ガガイト）に設置 総合教育研究棟を新築（清武キャンパス）	
4.1	国立大学の法人化に伴い、法人の設置する宮崎大学となる	
H17.4.1	保健管理センターを改組し、安全衛生保健センターを設置 大学院医学研究科を医学系研究科に改称し、看護学専攻（修士課程）を設置	
H18.4.1	地域共同研究センターを改組し、産学連携支援センターを設置 国際連携センターを設置	
H19.4.1	大学院工学研究科（博士後期課程）を廃止し、農学工学総合研究科（博士後期課程）を設置 鹿児島大学大学院連合農学研究科（博士後期課程）から離脱 大学院工学研究科（博士前期課程）を大学院工学研究科（修士課程）に改称 生涯学習教育研究センターと大学教育研究企画センターを統合し、教育研究・地域連携センターを設置 産学連携支援センターを産学連携センターに改称 農学部附属家畜病院を農学部附属動物病院に改称	
8.1	情報戦略室を設置	
11.1	総合情報処理センターを廃止し、情報支援センターを設置	
12.26	医学部附属病院歯科口腔外科橋通りクリニックを設置	
H20.4.1	大学院教育学研究科（専門職学位課程）を設置 教育文化学部を改組 大学院医学系研究科（博士課程）を改組 医学部附属病院周産母子センターを改組し、医学部附属病院総合周産期母子医療センターを設置	
11.15	木花キャンパス移転20周年記念事業挙行	
H22.4.1	大学院医学系研究科（博士課程）を廃止し、医学獣医学総合研究科（博士課程）を設置 大学院医学系研究科（修士課程）を医科学看護学研究科（修士課程）に改称 山口大学大学院連合獣医学研究科（博士課程）から離脱 農学部を改組	
8.4	サテライト・オフィスを宮崎市中心部（橋通り3丁目ビル1階）に移転	
10.1	産学連携センター及び教育研究・地域連携センターを改組し、産学・地域連携センター及び教育・学生支援センターを設置 情報戦略室と情報支援センターを統合し、情報基盤センターを設置 農学部附属自然共生フィールド科学教育研究センターを農学部附属フィールド科学教育研究センターに改称	

学部・大学院等

学部

学部	学科・課程	講座・コース
教育文化学部	学校教育課程	初等教育コース 中学校教育コース 特別支援教育コース
	人間社会課程	言語文化コース 社会システムコース
医学部	医学科	基礎系医学講座 解剖学 (分子細胞生物学, 超微形態科学, 神経生物学) 機能制御学 (統合生理学, 応用生理学, 腫瘍生化学, 機能生化学, 薬理学, 心理学, 物理科学, 物質科学) 病理学 (構造機能病理学, 腫瘍・再生病理学) 感染症学 (微生物学, 寄生虫学) 社会医学 (衛生学, 公衆衛生学, 法医学, 生命・医療倫理学, 医療社会学, 数理科学, 英語, ドイツ語)
		臨床系医学講座 内科学 (循環体液制御学, 消化器血液学, 神経呼吸内分泌代謝学, 免疫感染病理学) 外科学 (腫瘍機能制御外科学, 循環呼吸・総合外科学, 泌尿器科学) 臨床神経科学 (精神医学, 脳神経外科学) 生殖発達医学 (小児科学, 産婦人科学) 感覚運動医学 (整形外科学, 皮膚科学, 眼科学, 耳鼻咽喉・頭頸部外科学, 顎顔面口腔外科学) 病態解析医学 (放射線医学, 麻酔生体管理学, 救急・災害医学)
	看護学科	基礎看護学講座, 成人・老年看護学講座, 小児・母性 (助産専攻) 看護学講座, 地域・精神看護学講座
工学部	材料物理工学科	量子システム工学講座, 材料開発工学講座, 構造数理科学講座
	物質環境化学科	機能物質化学講座, 資源環境化学講座, 生物物質化学講座
	電気電子工学科	電子基礎工学講座, 電子システム工学講座, 電気エネルギー工学講座
	土木環境工学科	建設構造講座, 環境制御講座, 環境計画講座
	機械システム工学科	設計システム工学講座, エネルギーシステム工学講座
	情報システム工学科	基礎情報科学講座, 産業情報システム講座
農学部	植物生産環境科学科	
	森林緑地環境科学科	
	応用生物科学科	
	海洋生物環境科学科	
	畜産草地科学科	
	獣医学科	

大学院

研究科	専攻	専修・分野・部門・講座・領域・コース
教育学研究科 (修士課程)	学校教育支援	教育臨床心理専修, 日本語支援教育専修
教育学研究科 (専門職学位課程)	教職実践開発 (教職大学院)	学校・学級経営コース, 生徒指導・教育相談コース, 教科領域教育実践開発コース, 教育課程・学習開発コース
医科学看護学研究科 (修士課程)	医科学	
	看護学	修士論文コース (基盤看護学分野 (システム看護学領域, 地域精神看護学領域), 実践看護学分野 (ストレス対処看護学領域, 母子健康看護学領域)) 専門看護コース (がん看護分野 (がん看護領域))
工学研究科 (修士課程)	応用物理学	量子システム工学講座, 材料開発工学講座, 構造数理科学講座
	物質環境化学	機能物質化学講座, 資源環境化学講座, 生物物質化学講座
	電気電子工学	電子基礎工学講座, 電子システム工学講座, 電気エネルギー工学講座
	土木環境工学	建設構造講座, 環境制御講座, 環境計画講座
	機械システム工学	設計システム工学講座, エネルギーシステム工学講座
農学研究科 (修士課程)	情報システム工学	基礎情報科学講座, 産業情報システム講座
	生物生産科学	植物生産科学領域, 動物生産科学領域
	地域資源管理科学	農林資源計画学領域, 生産環境工学領域
	森林草地環境科学	森林科学領域, 草地環境科学領域
	水産科学	水産科学領域
医学獣医学総合研究科 (博士課程)	応用生物科学	生物機能科学領域, 食品機能化学領域
	医学獣医学	高度臨床医育成コース, 高度獣医師育成コース, 研究者育成コース
農学工学総合研究科 (博士後期課程)	資源環境科学	環境共生科学教育コース, 持続生産科学教育コース
	生物機能応用科学	生命機能科学教育コース, 水域生物科学教育コース
	物質・情報工学	新材料エネルギー工学教育コース, 生産工学教育コース, 数理情報工学教育コース

寄附講座

部局名	研究部門名	設置期間	寄附者
国際連携センター	地盤環境保全研究部門	平成22年4月1日～平成25年3月31日	地盤環境保全 コンソーシアム
医学部	地域医療学講座	平成22年4月1日～平成26年3月31日	宮崎県

附属図書館

蔵書構成（本館）

（平成 23 年 4 月 1 日現在）

区分	総記	哲学・宗教	歴史・地理	社会科学	自然科学	工学・技術	産業	芸術・美術	言語	文学	合計
和書	17,804	20,168	30,076	98,951	72,878	50,305	34,373	19,619	11,682	28,616	384,472
洋書	4,317	7,722	4,537	16,629	40,889	11,086	9,986	2,238	4,690	12,055	114,149
合計	22,121	27,890	34,613	115,580	113,767	61,391	44,359	21,857	16,372	40,671	498,621

蔵書構成（医学分館）

（平成 23 年 4 月 1 日現在）

区分	基礎教育等（和洋）							専門教育等									合計
	人文	社会	自然	外国語	保健 体育	その他	小計	基礎医学			臨床医学			看護学			
								和書	洋書	小計	和書	洋書	小計	和書	洋書	小計	
蔵書	6,441	4,811	7,234	4,735	460	758	24,439	12,206	23,367	35,573	20,827	36,602	57,429	4,256	521	4,777	122,218

雑誌情報

区分	所蔵	
	本館	医学分館
和雑誌	9,106	1,416
洋雑誌	3,015	1,812
合計	12,121	3,228

開館時間

	本館	医学分館
平日	8:40 ~ 20:00 (17:00)	9:00 ~ 20:00 (17:00)
土曜日	10:00 ~ 16:00	13:15 ~ 17:00
日曜日	10:00 ~ 16:00	13:15 ~ 17:00

() 内は休業期間中の閉館時間

休館日

休業期間中の土曜日・日曜日、国民の祝・休日、年末年始(12/28-1/4)

※その他、臨時に開館時間の変更や休館を行う場合は掲示する。

利用状況

（平成 22 年度）

区分	本館		医学分館		
入館者(人)	181,225		167,964		
〔うち学外者(人)〕	〔653〕		〔188〕		
貸出	人数(人)	冊数(冊)	人数(人)	冊数(冊)	
	学生	10,965	22,690	7,150	11,265
	教職員	1,565	7,163	915	1,581
	学外者	425	1,166	73	158
	合計	12,955	31,019	8,138	13,004
レファレンスサービス(件)	2,509		846		
学外文献 複写	依頼(件)	2,291		2,338	
	受付(件)	1,328		2,676	

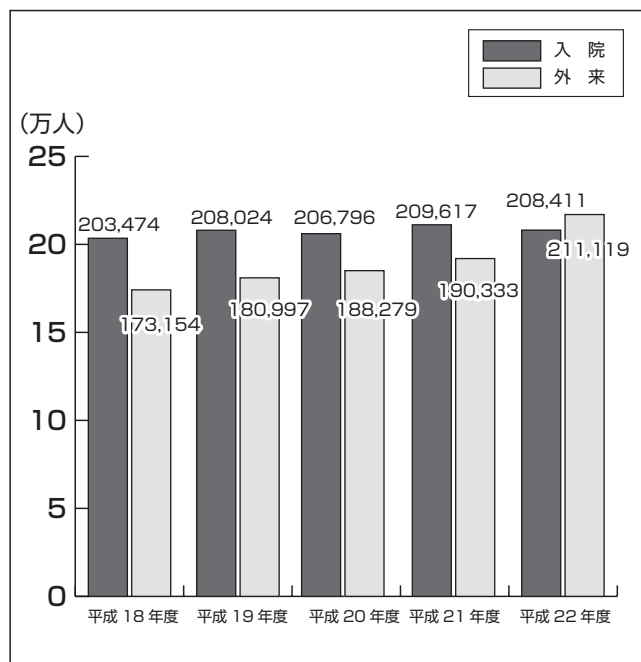
平成 22 年度医学部附属病院患者数

科名	区分	入院			外来			
		病床数	延患者数	1日平均患者数	初診	再診	延患者数	1日平均患者数
第一内科		47	17,404	47.6	1,853	15,300	17,153	70.5
第二内科		40	15,989	43.8	1,169	12,508	13,677	56.2
膠原病・感染症内科		12	4,699	12.8	412	3,850	4,262	17.5
第三内科		48	17,181	47.0	1,352	12,992	14,344	59.0
精神科		36	9,745	26.6	376	7,496	7,872	32.3
小児科		29	12,003	32.8	800	14,304	15,104	62.1
第一外科		45	18,413	50.4	676	7,511	8,187	33.6
第二外科		49	17,998	49.3	664	6,932	7,596	31.2
整形外科		48	18,956	51.9	2,387	29,643	32,030	131.8
皮膚科		26	8,327	22.8	1,299	11,629	12,928	53.2
泌尿器科		26	9,207	25.2	870	11,774	12,644	52.0
眼科		28	9,895	27.1	1,709	14,727	16,436	67.6
耳鼻咽喉科		30	10,736	29.4	1,599	10,362	11,961	49.2
産科婦人科		57	19,189	52.5	824	10,993	11,817	48.6
放射線科		6	1,554	4.2	773	3,112	3,885	15.9
麻酔科		3	908	2.4	559	4,787	5,346	22.0
脳外科		23	8,621	23.6	388	3,120	3,508	14.4
歯科口腔外科		13	5,142	14.0	1,321	10,025	11,346	46.6
救急部		3	2,444	6.6	764	235	999	4.1
禁煙外来		0	0	0.0	7	17	24	0.0
計		※ 612	208,411	571.0	19,802	191,317	211,119	872.4

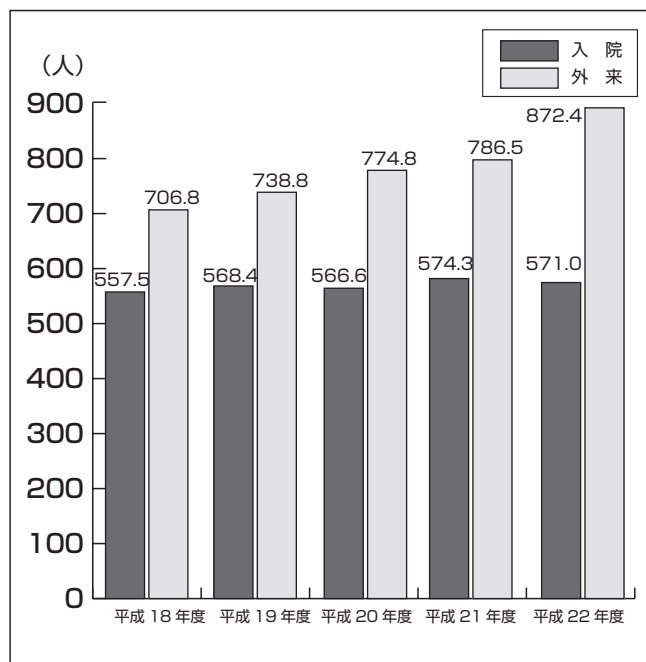
※はその他の病床 43 床を含む

年度別患者数

延患者数



1日平均患者数



学生・生徒・児童及び園児数

1. 学 部

(平成 23 年 5 月 1 日現在)

学部	学科・課程	定員		現員						計
		入学定員	収容定員	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
教育文化学部	学校教育課程	150	600	157	157	147	174			635
	人間社会課程	80	320	82	81	(1) 84	(2) 85			(3) 332
	地域文化課程						11			11
	生活文化課程						7			7
	社会システム課程						10			10
	計	230	920	239	238	(1) 231	(2) 287			(3) 995
医学部	医学科	110	625	116	117	127	93	100	106	659
	看護学科	{10} 60	{20} 240	61	65	66	73			265
	計	{10} 170	{20} 865	177	182	193	166	100	106	924
工学部	材料物理工学科	49	196	52	(1) 50	52	73			(1) 227
	物質環境化学科	68	272	(1) 69	(2) 71	72	79			(3) 291
	電気電子工学科	88	352	(1) 91	(4) 91	(2) 98	128			(7) 408
	土木環境工学科	58	232	(1) 59	(2) 61	60	(1) 85			(4) 265
	機械システム工学科	49	196	(1) 52	(2) 50	(1) 54	(1) 70			(5) 226
	情報システム工学科	58	232	(1) 61	61	(2) 66	84			(3) 272
	計	{10} 370	{20} 1,480	(5) 384	(11) 384	(5) 402	(2) 519			(23) 1,689
農学部	植物生産環境科学科	50	100	53	(2) 54					(2) 107
	森林緑地環境科学科	50	100	52	(1) 52					(1) 104
	応用生物科学科	55	220	(1) 57	(1) 57	54	69			(2) 237
	海洋生物環境学科	30	60	31	31					62
	畜産草地科学科	50	100	(1) 54	52					(1) 106
	獣医学科	30	180	31	32	30	(1) 31	30	41	(1) 195
	食料生産科学科		120			62	70			132
	生物環境科学科		130			65	(1) 83			(1) 148
	地域農業システム学科		110			57	66			123
	計	265	1,120	(2) 278	(4) 278	268	(2) 319	30	41	(8) 1,214
合計	{20} 1,035	{40} 4,385	(7) 1,078	(15) 1,082	(6) 1,094	(6) 1,291	130	147	(34) 4,822	

() 内は外国人留学生で内数

{ } 内は第3年次編入学定員分を外数

2. 大学院（修士課程）

（平成 23 年 5 月 1 日現在）

研究科	専攻	定員		現員		
		入学定員	収容定員	1 年次	2 年次	計
教育学研究科	学校教育支援専攻	10	20	(1) 11	(2) 12	(3) 23
	学校教育専攻				1	1
	計	10	20	(1) 11	(2) 13	(3) 24
医科学看護学 研究科	医科学専攻	15	30	(1) 15	9	(1) 24
	看護学専攻	10	20	8	9	17
	計	25	50	(1) 23	18	(1) 41
医学系研究科	医科学専攻				2	2
	看護学専攻				6	6
	計			0	8	8
工学研究科	応用物理学専攻	15	30	18	22	40
	物質環境化学専攻	21	42	27 (4)	24 (2)	51 (6)
	電気電子工学専攻	27	54	36 (6)	45	81 (6)
	土木環境工学専攻	18	36	24 (6)	18	42 (1)
	機械システム工学専攻	15	30	19 (3)	23 (1)	42 (4)
	情報システム工学専攻	18	36	21 (3)	18	39 (4)
	計	114	228	145 (13)	150 (4)	295 (17)
農学研究科	生物生産科学専攻	16	32	(3) 13	14	(3) 27
	地域資源管理科学専攻	12	24	9	11 (1)	20 (1)
	森林草地環境科学専攻	10	20	10	12	22
	水産科学専攻	10	20	10	12	22
	応用生物科学専攻	20	40	22 (3)	18 (2)	40 (5)
	計	68	136	64 (18)	67 (8)	131 (26)
合計		217	434	243 (18)	256 (8)	499 (26)

（ ）内は外国人留学生で内数

3. 大学院（博士後期課程・博士課程）

（平成 23 年 5 月 1 日現在）

研究科	専攻	定員		現員				計
		入学定員	収容定員	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
医学系研究科	医学専攻		40			17	(1) 18	(1) 35
	細胞・器官系専攻						13	13
	生体制御系専攻						26	26
	生体防衛機構系専攻						2	2
	環境生態系専攻						2 (1)	2 (1)
	計		40	0	0	17	61 (1)	78 (1)
医学獣医学総合 研究科	医学獣医学専攻	23	46	(7) 28	(4) 25			(11) 53
	計	23	46	(7) 28	(4) 25			(11) 53
農学工学 総合研究科	資源環境科学専攻	4	12	(4) 10	(3) 8	(11) 29		(18) 47
	生物機能応用科学専攻	4	12	7 (1)	1	1 (1)		(1) (2)
	物質・情報工学専攻	8	24	7 (5)	3 (3)	6 (13)		16 (21)
	計	16	48	24 (5)	12 (3)	36 (13)		72 (21)
鹿児島大学大学院 連合農学研究科	水産資源科学専攻		*				1	1
	計		*				1	1
山口大学大学院 連合獣医学研究科	獣医学専攻		*		1	(2) 4	4	(2) 9
	計		*		1	(2) 4	4	(2) 9

（ ）内は外国人留学生で内数

※平成 19 年度から農学工学総合研究科の設置に伴い、鹿児島大学大学院連合農学研究科を離脱し、入学者の募集を停止した。

※平成 22 年度から医学獣医学総合研究科の設置に伴い、山口大学大学院連合獣医学研究科を離脱し、入学者の募集を停止した。

4. 専門職大学院（専門職学位課程）

（平成23年5月1日現在）

研究科	専攻	定員		現員		
		入学定員	収容定員	1年次	2年次	計
教育学研究科	教職実践開発専攻 (教職大学院)	28	56	25	18	43

5. 別科

別科	専修	定員	現員
畜産別科	畜産専修	4	4

6. 科目等履修生・研究生

学部・研究科	科目等履修生	研究生
学部		
教育文化学部	6	12
医学部		
工学部	1	2
農学部	2	4
大学院		
教育学研究科		
医学系研究科		1
工学研究科		2
農学研究科		1
医学獣医学総合研究科		
農学工学総合研究科		
合計	9	22

7. 附属学校園

（平成23年5月1日現在）

	区分	定員				現員				学級数	
		3歳児	4歳児	5歳児	計	3歳児	4歳児	5歳児	計		
附属幼稚園	2年保育	—	50	50	100	—	36	49	85	計5学級	
	3年保育	20	20	20	60	20	19	16	55		
	計	20	70	70	160	20	55	65	140		
附属小学校	学校区分	定員		現員						学級数	
		入学定員	収容定員	1年	2年	3年	4年	5年	6年		計
	普通学級	120	720	119	115	115	110	114	115	688	各学年3学級 計18学級
	特別支援学級	4	24	3	2	2	2	2	2	13	計3学級 1.2年、3.4年、5.6年
計	124	744	122	117	117	112	116	117	701		
附属中学校	学校区分	定員		現員				学級数			
		入学定員	収容定員	1年	2年	3年	計				
	普通学級	160	480	160	154	157	471	各学年4学級 計12学級			
	特別支援学級	8	24	5	7	6	18	各学年1学級 計3学級			
計	168	504	165	161	163	489					

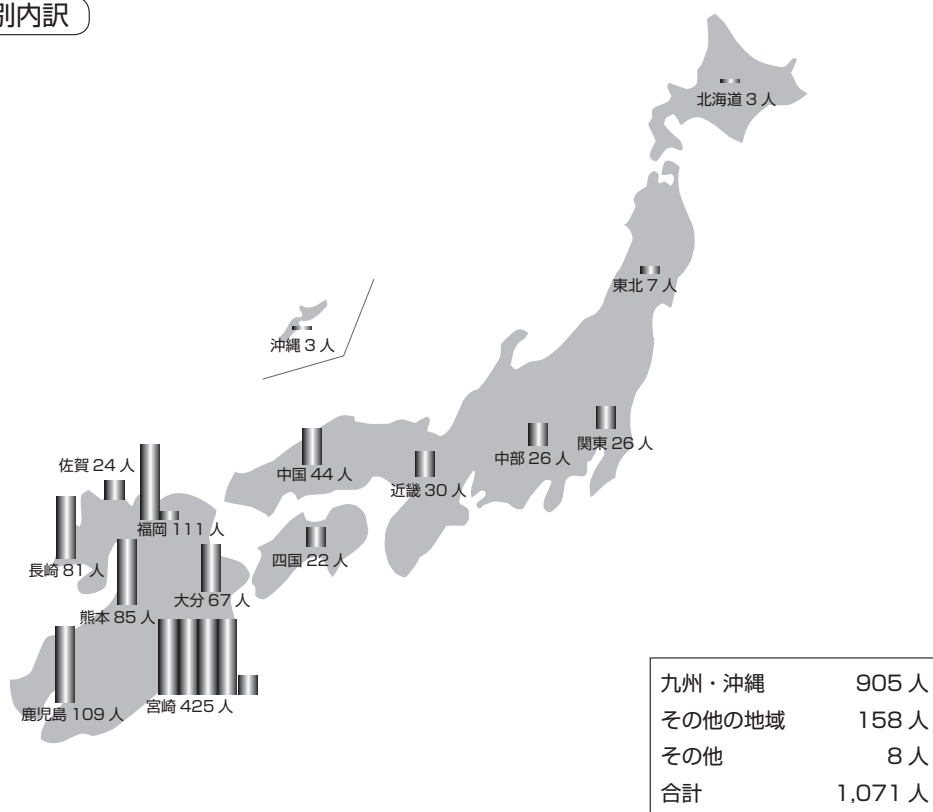
平成23年度入学状況

1. 学部

学部	学科・課程		入学定員		志願者			入学者			
					男	女	計	男	女	計	
教育文化学部	学校教育課程	初等教育コース		75	95	193	288	27	53	80	
		中学校教育コース	国語専攻	6	60	5	8	13	3	3	6
			社会専攻	7		41	12	53	6	1	7
			数学専攻	9		50	21	71	9		9
			理科専攻	8		29	16	45	5	3	8
			音楽専攻	5			8	8		6	6
			美術専攻	4		3	6	9	1	3	4
			保健体育専攻	7		27	3	30	6	1	7
			技術専攻	4		13	3	16	3	1	4
			家庭専攻	4		1	26	27		4	4
			英語専攻	6		8	4	12	4	3	7
		特別支援教育コース	15	23	86	109	1	14	15		
	人間社会課程	言語文化コース	15	80	(4)	(4)	(4)				
社会システムコース		65	25		40	65	9	8	17		
	計			(5)	(6)	(11)					
			230	467	549	1,016	114	125	239		
医学部	医学科		110	(4)	(4)	(8)					
				713	413	1,126	63	47	110		
	看護学科		60	33	228	261	9	51	60		
	計		170	(4)	(4)	(8)					
				746	641	1,387	72	98	170		
工学部	材料物理工学科		49	320	29	349	46	6	52		
	物質環境化学科		68	(2)	(4)	(6)		(1)	(1)		
				274	104	378	52	17	69		
	電気電子工学科		88	(14)	(2)	(16)		(1)	(1)		
				336	3	339	89	2	91		
	土木環境工学科		58	(8)	(2)	(10)	(1)		(1)		
				427	30	457	55	4	59		
機械システム工学科		49	(4)	(1)	(5)		(1)	(1)			
				415	4	419	51	1	52		
情報システム工学科		58	(5)	(1)	(6)		(1)	(1)			
				240	18	258	57	4	61		
	計		370	(33)	(10)	(43)	(1)	(4)	(5)		
				2,012	188	2,200	350	34	384		
農学部	植物生産環境科学科		50	(4)	(4)	(4)					
				100	117	217	23	30	53		
	森林緑地環境科学科		50	(1)	(1)	(2)					
					183	96	279	33	19	52	
	応用生物科学科		55	(4)	(3)	(7)		(1)	(1)		
					132	92	224	31	26	57	
	海洋生物環境学科		30	(2)	(3)	(5)					
				85	45	130	20	11	31		
畜産草地科学科		50	(1)		(1)	(1)	(1)	(1)			
				136	185	321	23	31	54		
獣医学科		30	(3)	(2)	(5)						
				117	149	266	13	18	31		
	計		265	(11)	(13)	(24)	(1)	(1)	(2)		
				753	684	1,437	143	135	278		
	合計		1,035	(53)	(33)	(86)	(2)	(5)	(7)		
				3,978	2,062	6,040	679	392	1,071		

() 内は外国人留学生で内数

出身高校所在地域別内訳



2. 大学院

研究科	入学定員	志願者			入学者		
		男	女	計	男	女	計
教育学研究科（修士）	10	7	(2) 15	(2) 22	3	(2) 8	(2) 11
教育学研究科（専門職学位）	28	17	11	28	15	10	25
医科学看護学研究科（修士）	25	8	(1) 16	(1) 24	8	(1) 15	(1) 23
工学研究科（修士）	114	(4) 166	(2) 18	(6) 184	(3) 121	(1) 15	(4) 136
農学研究科（修士）	68	(2) 67	(1) 29	(3) 96	(2) 42	(1) 22	(3) 64
医学獣医学総合研究科（博士）	23	(4) 14	(3) 12	(7) 26	(4) 13	(3) 12	(7) 25
農学工学総合研究科（博士後期）	16	(1) 13	(2) 4	(3) 17	(2) 12	(2) 3	(2) 15
計	284	(11) 292	(11) 105	(22) 397	(9) 214	(10) 85	(19) 299

() 内は外国人留学生で内数

3. 別科

別科	入学定員	志願者			入学者		
		男	女	計	男	女	計
畜産別科	4	5		5	3		3

卒業生・修了者数

1. 学 部

学部	学科・課程	平成22年度 卒業生数	全卒業生数	備考
教育学部	2年課程 第1部		1,050	昭和39年廃止
	2年課程 第2部		267	
	小学校教員養成課程		4,782	
	中学校教員養成課程		2,812	
	養護学校教員養成課程		486	
	幼稚園教員養成課程		602	
	特別教科(理科)教員養成課程		612	
	特別教科(音楽)教員養成課程		984	
	人文社会課程		676	
	計		12,271	
教育文化学部	学校教育課程	102	959	平成11年教育学部を改組
	地域文化課程	36	269	
	生活文化課程	38	367	
	社会システム課程	59	522	
	計	235	2,117	
医学部	医学科	93	3,066	
	看護学科	64	466	
	計	157	3,532	
工学部	機械工学科		1,428	平成4年機械工学科、工業化学科、土木工学科、電気工学科、電子工学科、応用物理学科を改組
	工業化学科		1,297	
	土木工学科		1,577	
	電気工学科		1,191	
	電子工学科		231	
	応用物理学科		921	
	物質工学科		708	
	情報工学科		316	
	材料物理工学科	46	389	
	物質環境化学科	66	584	
	電気電子工学科	86	1,386	
	土木環境工学科	68	864	
	機械システム工学科	52	776	
	情報システム工学科	65	472	
	計	383	12,140	平成11年物質工学科、情報工学科を改組
農学部	農学部 第1部		50	昭和28年廃止
	農学部 第2部		52	
	農学科		1,285	
	林学科		1,081	
	畜産学科		1,068	
	獣医学科	26	1,595	
	農業化学科		1,304	
	水産学科		292	
	水産増殖学科		626	
	総合農学科		302	
	農業工学科		922	
	草地学科		331	
	農林生産学科		1,265	
	生物資源利用学科		625	
	動物生産学科		785	
	食料生産科学科	60	483	
	生物環境科学科	62	518	
	地域農業システム学科	61	419	
	応用生物科学科	55	431	
		計	264	
	合計	1,039	43,494	

外国人留学生を含む

2. 大学院

研究科	平成 22 年度修了者数	全修了者数	備考
教育学研究科（修士）	10	503	
医学系研究科（修士）	13	110	
医学系研究科（博士）	20	376	
工学研究科（修士）	127	2,367	
工学研究科（博士後期）		95	平成 18 年度をもって廃止
農学研究科（修士）	59	1,776	
農学工学総合研究科（博士後期）	17	25	
合計	246	5,252	

専門職大学院

研究科	平成 22 年度修了者数	全修了者数	備考
教育学研究科（専門職学位）	24	55	

3. 専攻科

研究科	全修了者数	備考
教育専攻科	119	平成 6 年度をもって廃止
工学専攻科	30	昭和 51 年度をもって廃止
農学専攻科	50	昭和 48 年度をもって廃止
合計	199	

4. 別科

研究科	平成 22 年度修了者数	全修了者数	備考
畜産別科	0	298	

博士の学位授与者数

（平成 23 年 3 月 31 日現在）

区分	課程博士		論文博士	
	平成 22 年度	累計	平成 22 年度	累計
医学系研究科	21	379	3	207
工学研究科	2	113	0	5
農学工学総合研究科	20	28	0	0

平成 22 年度就職状況

1. 学 部

(平成 23 年 5 月 1 日現在)

区分	卒業生数	進学者数	就職者数	就職先内訳		その他
				県内	県外	
教育文化学部	235(152)	18(9)	181(127)	94(65)	87(62)	36(16)
医学部	157(95)	0(0)	62(58)	28(27)	34(31)	95(37)
工学部	383(40)	141(14)	202(25)	59(7)	143(18)	40(1)
農学部	264(111)	68(25)	165(74)	55(22)	110(52)	31(12)
合計	1,039(398)	227(48)	610(284)	236(121)	374(163)	202(66)

() 内は女子で内数。外国人留学生を含む。

その他：臨床研修医、研究生、就職活動中、公務員（教員）試験等準備、海外留学、未就職者等を計上。

■産業別就職状況

(平成 23 年 5 月 1 日現在)

区分	教育文化学部	医学部	工学部	農学部	合計
農業、林業	1(0)		2(0)	18(7)	21(7)
漁業					
鉱業、採石業、砂利採取業					
建設業			41(3)	3(1)	44(4)
製造業	1(1)		77(8)	31(15)	109(24)
電気・ガス・熱供給・水道業			4(0)	3(1)	7(1)
情報通信業	7(6)		24(5)	5(3)	36(14)
運輸業、郵便業	1(1)		3(0)	1(0)	5(1)
卸売業、小売業	15(9)		8(3)	20(9)	43(21)
金融業、保険業	11(9)		1(0)	19(9)	31(18)
不動産業、物品賃貸業	3(3)				3(3)
学術研究、専門・技術サービス業	4(3)		4(1)	15(9)	23(13)
宿泊業、飲食サービス業	7(5)			3(2)	10(7)
生活関連サービス業、娯楽業	8(6)		4(1)	1(0)	13(7)
教育、学習支援業	72(51)		1(1)	12(7)	85(59)
医療、福祉	14(14)	62(58)	3(0)	1(1)	80(73)
複合サービス業	10(6)		3(1)	1(0)	14(7)
サービス業			3(0)	3(1)	6(1)
公務	27(13)		24(2)	28(9)	79(24)
その他				1(0)	1(0)
合計	181(127)	62(58)	202(25)	165(74)	610(284)

() 内は女子で内数

2. 大 学 院

◇（修士・専門職学位）課程

(平成 23 年 5 月 1 日現在)

区分	修了者数	進学者数	就職者数	就職先内訳		その他
				県内	県外	
教育学研究科	34(18)	1(1)	28(14)	21(12)	7(2)	5(3)
医学系研究科	13(8)	2(1)	11(7)	10(7)	1(0)	
工学研究科	127(8)	5(1)	118(6)	13(0)	105(6)	4(1)
農学研究科	59(14)	8(1)	45(11)	9(2)	36(9)	6(2)
合計	233(48)	16(4)	202(38)	53(21)	149(17)	15(6)

◇（博士後期・一貫）課程

(平成 23 年 5 月 1 日現在)

区分	修了者数	就職者数	就職先内訳		その他
			県内	県外	
医学系研究科	20(4)	18(3)	16(3)	2(0)	2(1)
農学工学総合研究科	17(3)	14(2)	2(0)	12(2)	3(1)
合計	37(7)	32(5)	18(3)	14(2)	5(2)

() 内は女子で内数。外国人留学生を含む。

その他：研究生、就職活動中、公務員（教員）試験等準備、海外留学、未就職者等を計上。

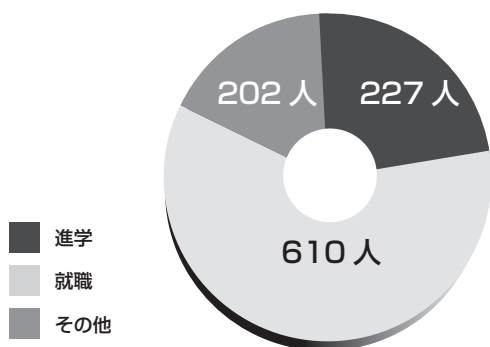
■産業別就職状況

(平成 23 年 5 月 1 日現在)

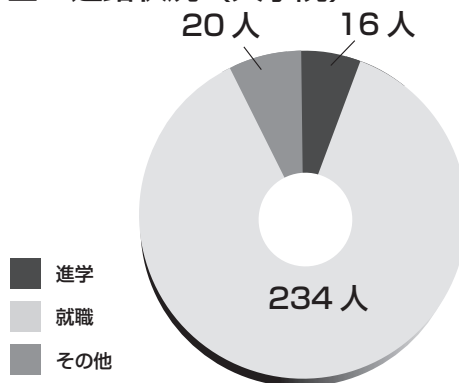
区分	教育学研究科	医学系研究科	工学研究科	農学研究科	農学工学総合研究科	合計
農業、林業				7(4)		7(4)
漁業						
鉱業、採石業、砂利採取業			1(0)			1(0)
建設業			9(0)			9(0)
製造業			59(3)	18(2)	2(0)	79(5)
電気・ガス・熱供給・水道業			6(0)	1(0)		7(0)
情報通信業			18(0)	1(0)		19(0)
運輸業、郵便業						
卸売業、小売業			2(1)	2(0)		4(1)
金融業、保険業			2(0)	6(2)		8(2)
不動産業、物品賃貸業						
学術研究、専門・技術サービス業		3(1)	3(0)		7(1)	13(2)
宿泊業、飲食サービス業				1(0)		1(0)
生活関連サービス業、娯楽業						
教育、学習支援業	25(11)		3(0)	2(1)	5(1)	35(13)
医療、福祉	3(3)	26(9)				29(12)
複合サービス事業						
サービス業			2(1)			2(1)
公務			13(1)	7(2)		20(3)
その他						
合計	28(14)	29(10)	118(6)	45(11)	14(2)	234(43)

() 内は女子で内数

■ 進路状況 (学部)



■ 進路状況 (大学院)



奨学生状況

(平成 23 年 2 月 1 日現在)

区分	在学生数	日本学生支援機構			その他の奨学団体	合計 (単位:人)	在学生に 対する割合	
		一種	二種 (きぼう21プラン)	(うち併用者)				
学部	教育文化学部	995	197	360	(35)	10	532	53.5
	医学部	908	145	324	(62)	56	463	51.0
	工学部	1,680	316	689	(70)	15	950	56.5
	農学部	1,202	226	441	(45)	25	647	53.8
	計	4,785	884	1,814	(212)	106	2,592	54.2
大学院	教育学研究科	63	21	4	0	0	25	39.7
	医学系研究科(修士)	21	2	1	(1)	0	2	9.5
	医科学看護学研究科	18	1	0	0	0	1	5.6
	工学研究科	269	122	62	(12)	7	179	66.5
	農学研究科	130	69	25	(4)	0	90	69.2
	医学系研究科(博士)	91	8	3	(3)	0	8	8.8
	医学獣医学総合研究科	25	3	1	0	0	4	16.0
	農学工学総合研究科	50	11	1	0	1	13	26.0
計	667	237	97	(20)	8	322	48.3	
合計	5,452	1,121	1,911	(232)	114	2,914	53.4	

※その他の奨学団体の人数は、大学に推薦依頼があり、採用された奨学生のみで、学生が直接奨学団体に応募して採用された者は含まない。また、留学生は含まない。

国際交流

1. 外国人留学生数

(平成 23 年 5 月 1 日現在)

国・地域名	学部			大学院			研究生			特別聴講学生			合計
	国費	政府派遣	私費	国費	政府派遣	私費	国費	政府派遣	私費	国費	政府派遣	私費	
インド				2									2
ネパール				3		1							4
バングラディシュ				2		2							4
タイ						1							1
マレーシア		2	3										5
インドネシア			1	1		18							20
韓国			3			2					7		12
ベトナム			2			1							3
中国			21			22			4				47
中国 (台湾)			1			1			1			3	6
エジプト						2							2
ラオス			1										1
フィリピン				1									1
ジンバブエ				1									1
スロベニア												1	1
計		2	32	10		50			5			11	110

2. 海外派遣留学生

区分	派遣国・地域名	大学名	平成 22 年度派遣留学生
交流協定校への留学	韓国	順天大学	1
	中国	上海交通大学	1
	タイ	プリンス・オブ・ソンクラ大学医学部	13
	中国 (台湾)	国立政治大学	1
	アメリカ	カリフォルニア大学アーバイン校医学部	2
	スロベニア	リュブリャナ大学	2

3. 外国人研究者受入状況

(平成22年度)

受入部局 国・地域名	教育文化学部	医学部	工学部	農学部	産学・地域 連携センター	教育・学生 支援センター	フロンティア 科学実験総合 センター	国際連携 センター	合計
インド		3	1	3			1		8
インドネシア			36	6					42
韓国		1	1	1		1	2	6	12
タイ		14		4					18
中国(台湾)	1		1						2
中国		9	1	5				6	21
バングラデシュ		3		1				1	5
フィリピン				1					1
ベトナム				2					2
マレーシア				1					1
トルコ				1					1
エジプト				2					2
リビア				1					1
オーストラリア				2					2
アメリカ		1	1	1					3
カナダ		2							2
ブラジル		1		1					2
イギリス	1								1
イタリア								4	4
オランダ		1	1						2
ドイツ	1								1
フランス							3		3
ベルギー							1		1
合計	3	35	42	32	0	1	7	17	137

4. 外国の大学等との交流一覧

(平成23年5月1日現在)

■大学間交流協定

国・地域名	大学等	学術交流協定締結年月日	学生交流覚書締結年月日
韓国	嶺南大学校	昭和62. 2. 8	平成17.11.28
スロベニア	リュブリャナ大学	昭和62. 9.30	平成20. 4. 8
韓国	順天大学校	平成 元.11.21	平成 7. 8.22
中国	南京農業大学	平成 2.11.28	平成17.11. 2
タイ	カセサート大学	平成 4. 9. 4	平成20.10.14
タイ	プリンス・オブ・ソンクラ大学	平成 7.12.11	平成17. 3. 1 ※(医学部のみ)
中国	上海交通大学	平成11.12.21	平成21.11. 1
中国	青海大学	平成17. 8.29	平成17. 8.29
インド	インド工科大学カンブール校	平成21. 7.13	
インド	チャトラパティ・シャフジ・マハラジ医科大学	平成21. 7.29	
韓国	全北大学校	平成21.12.15	平成21.12.15
ブラジル	サンパウロ大学農学部ルイス・デ・ケイロス校	平成22. 4.19	平成22. 4.19
イタリア	カリアリ大学	平成22. 9.27	
中国	西北農林科技大学	平成22.11.10	平成22.11.10

■部局間交流協定

国・地域名	大学・部局等	学術交流協定締結年月日	学生交流覚書締結年月日	締結部局
アメリカ	エヴァーグリーン州立大学		昭和61. 7.15	教育文化学部
ニュージーランド	オタゴ大学	平成20. 5. 5	昭和62. 2.10	〃
中国(台湾)	東呉大学外国語学院		平成16. 9. 6	〃
中国(台湾)	国立政治大学		平成21. 3.23	〃
中国	温州医学院	平成12. 3. 8		医学部
中国(台湾)	国立成功大学医学院	平成13. 3.16		〃
中国	延辺大学医学院	平成15. 2.12		〃
アメリカ	カリフォルニア大学アーバイン校医学部	平成17. 7. 1		〃
ポーランド	ヤン・コハノフスキ大学	平成 5. 2. 1		工学部
インドネシア	ブラウィジャヤ大学工学部	平成16. 4. 5	平成17. 9.26	〃
フィリピン	セントラル・ルソン国立大学	昭和63. 1.12	平成19.10. 1	農学部
タイ	チュロンコン大学獣医学部	昭和63. 1.26	平成 8. 4.12	〃
イギリス	スターリング大学養殖研究所	平成 2. 8.23		〃
インドネシア	ボゴール農科大学	平成 4. 8.31	平成 9. 9. 9	〃
中国	中国農業大学	平成 6.10.22	平成19. 6.25	〃
インドネシア	ハサヌディン大学	平成 7. 2. 6	平成19. 7. 2	〃
フィリピン	フィリピン大学ロス・バニョス校	平成 8. 3.25	平成18. 3. 3	〃
オーストラリア	メルボルン大学獣医学部	平成10.11. 2		〃
タイ	キング・モンクット工科大学生物資源技術学部	平成11. 7.21	平成23. 1.19	〃
アルゼンチン	プエノスアイレス大学農学部	平成13. 1.11	平成18. 3. 3	〃
モンゴル	モンゴル国立農業大学	平成15.10.17	平成20. 9.12	〃
ベトナム	ハノイ農業大学	平成17. 5.30	平成17. 5.30	〃
ネパール	トリバン大学中央図書館	平成20. 3. 3		附属図書館

連携協定機関

	協定先	協定月日	目的
1	株式会社 宮崎銀行	平成17年 2月24日	学術・文化の振興及び活力ある経済社会の形成並びに地域経済の活性化を図ることを目的とする。
2	株式会社 宮崎太陽銀行	平成17年 2月24日	学術・文化の振興及び活力ある経済社会の形成並びに地域経済の活性化を図ることを目的とする。
3	社団法人 宮崎県工業会	平成18年 6月 8日	相互の資質の向上及び大学と県内企業との連携強化を図り、地域社会の発展に貢献することを目的とする。
4	宮崎県経済農業協同組合連合会 (JA宮崎経済連)	平成19年 5月28日	宮崎県における農業の発展と相互の資質の向上に寄与することを目的とする。
5	宮崎県	平成19年 6月26日	宮崎の特性を生かし、豊かで活力ある地域社会の形成と発展に寄与することを目的とする。
6	学校法人高梁学園 九州保健福祉大学	平成21年 9月 9日	相互に緊密かつ組織的な連携・協力体制を築き、両大学の教育・研究の推進を図ることにより、それらを通じて地域や国際社会への貢献に寄与することを目的とする。
7	梅田学園グループ	平成22年 4月13日	交通安全運動推進並びに宮崎大学の学生サークル活動支援のため、それぞれが保有する機能やサービスの提供を目的とする。
8	社団法人 宮崎県商工会議所連合会	平成22年 6月 8日	学術・文化の振興、および大学と県内企業との連携強化、活力ある地域社会の形成と地域経済の活性化を図ることを目的とする。
9	宮崎県商工会連合会	平成22年 6月 8日	学術・文化の振興、および大学と県内企業との連携強化、活力ある地域社会の形成と地域経済の活性化を図ることを目的とする。
10	学校法人 宮崎総合学院	平成22年10月 7日	各種資格取得並びに就職試験対策への協力のため、それぞれが保有する機能やサービスの提供を目的とする。
11	フェニックスリゾート株式会社	平成23年 2月15日	それぞれの資質の向上と地域社会の発展に寄与することを目的とする。
12	宮崎県ホテル旅館生活衛生同業組合	平成23年 2月18日	スポーツメディカル構想の研究に関して連携協力し、宮崎県・宮崎市と連携を図りつつ、「スポーツランドみやざき」構想の新しい付加価値創造と地域社会の発展に寄与することを目的とする。
13	社団法人宮崎宮崎県商工会議所連合会 宮崎県農業協同組合中央会 宮崎県経済農業協同組合連合会 宮崎県漁業協同組合連合会 宮崎県森林組合連合会 宮崎県商工会連合会 宮崎県※宮崎県と本学はアドバイザーとして参加	平成23年 3月31日	農商工連携が推進される中、宮崎県の農業、漁業、林業、工業、商業等の各産業間の一層の連携強化について情報交換や研究を行う場を設けるとともに、それぞれの経営資源を有効に活用して行う事業等の実施について合意した場合は、積極・果敢にその実行に取り組むこととし、持って活力ある地域社会の形成と経済の活性化を図るものとする。
14	宮崎市	平成23年 4月 5日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。

平成22年度公開講座実施状況

●本学による公開講座

講座等の名称	実施期間	開講回数	総時間数	受講対象	受講者数	実施場所
木々の見分け方・名前のおぼえ方	5/8	1	7	一般	26	田野フィールド
源氏物語 ～巻巻を読む～	5/29～3/5	15	22.5	一般	36	教育研究・地域連携センター
医学と医療における最近の話題	11/25～12/6	5	10	一般	108	JA/A ZMホール
初心者のための太陽電池入門	12/4～12/5	4	16	中学生以上	13	総合研究棟 D 2 0 5
ナースのためのブラッシュアップ講座	11/6～12/11	3	9	看護職者	46	医学部 総合教育研究棟
看護師が行う呼吸理学療法・褥瘡予防のスキンケア	10/30	1	6	看護職者	70	医学部 総合教育研究棟
「耳の日」市民講座	3/6	1	3	一般	66	JA/A ZMホール

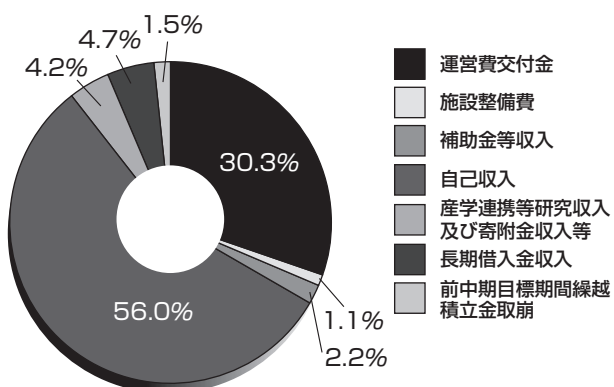
平成 22 年度経理状況

●決算額

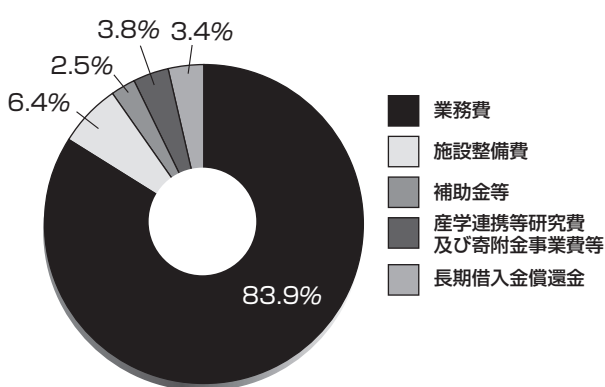
単位：円

収 入		支 出	
運営費交付金	10,043,787,000	業務費	教育研究経費 10,300,248,459
施設整備費	57,000,000		診療経費 15,040,088,438
施設整備費補助金	7,010,000	施設整備費	1,933,259,000
厚生労働省交付金	306,823,000	補助金等	743,508,468
補助金等収入	743,508,468	寄附金事業経費	386,706,904
自己収入	3,268,175,626	産学連携等研究費 及び寄附金事業費 等	受託研究等経費 606,289,249
授業料及び入学金検定料収入	14,917,175,624		受託事業等経費 137,275,664
附属病院収入	0		著作権及び特許料等収入 6,164,119
財産処分収入	388,199,998	長期借入金償還金	1,032,300,565
雑収入	610,868,189		
産学連携等研究収入 及び寄附金収入等	606,289,249		
寄附金収入	148,494,014		
受託研究等収入	8,120,268		
受託事業等収入	0		
版権及び特許料等収入	1,562,426,000		
引当金取崩	0		
長期借入金収入	0		
承継剰余金	490,932,188		
前中期目標期間繰越積立金取崩	33,158,809,624	合 計	30,185,840,866
合 計			

■ 収入



■ 支出

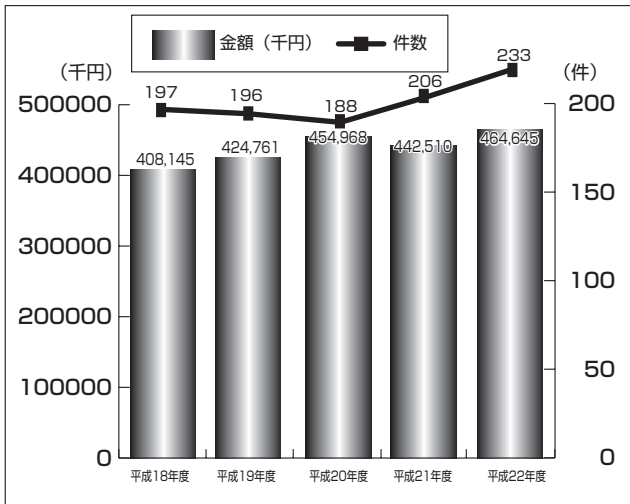


●科学研究費補助金採択状況

(平成 22 年度)

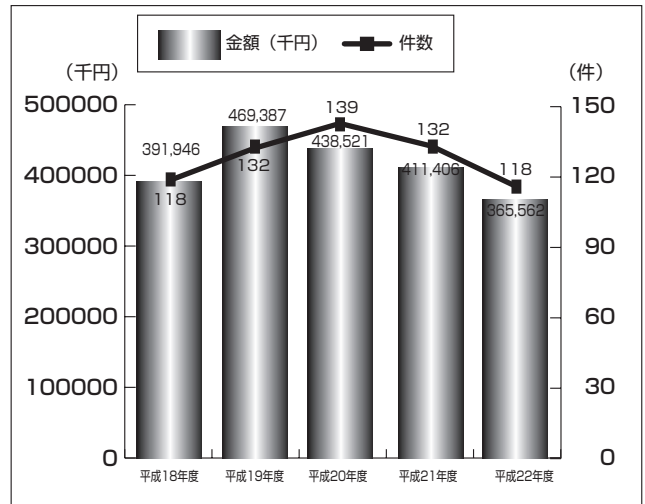
研究種目	採択件数	金額 (千円)
特定領域研究	2	6,800
新学術領域研究	3	35,750
基盤研究 (S)	1	20,020
基盤研究 (B)	22	120,510
基盤研究 (C)	118	150,930
挑戦の萌芽研究	19	20,200
若手研究 (A)	1	13,780
若手研究 (B)	53	84,009
研究活動スタート支援	3	4,316
特別研究員奨励費	6	4,700
奨励研究	4	2,130
研究成果公開促進費	1	1,500
計	233	464,645

●科学研究費補助金受入状況

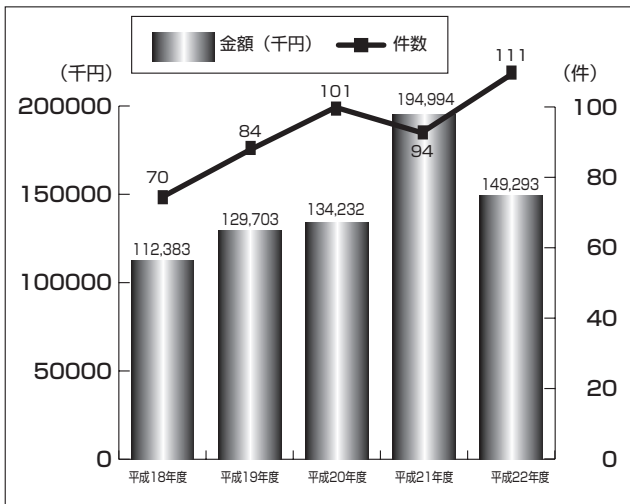


※平成18年度は奨励研究・研究成果公開促進費を除く

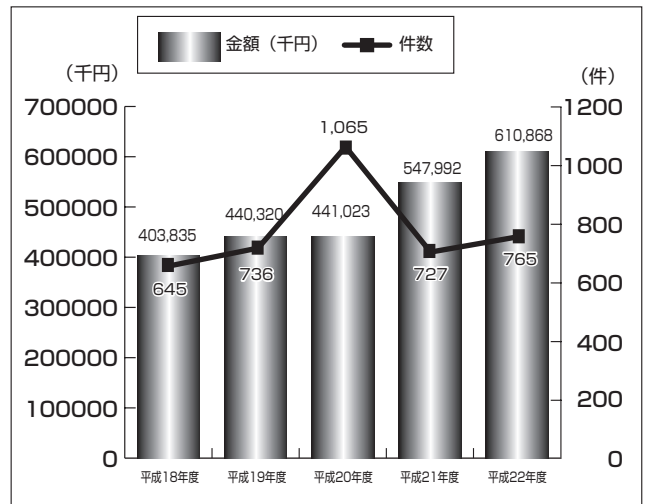
●受託研究受入状況



●共同研究実施状況



●寄附金受入状況



●その他の競争的資金等

(平成22年度)

経費	件数	金額 (千円)
科学技術総合推進費補助金 (科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業) (科学技術振興調整費「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」事業)	2	238,526
研究開発施設共用等促進費補助金 (ナショナルバイオリソースプロジェクト(中核的拠点整備プログラム))	1	27,000
先端研究助成基金助成金 最先端・次世代研究開発支援プログラム	1	1,040
最先端研究開発戦略的強化費補助金 頭脳循環を活性化させる若手研究者海外派遣プログラム	2	29,535
厚生労働省科学研究費補助金	5	145,110
環境省科学研究費補助金	1	25,974
国公立大学を通じた大学教育改革の支援 (GP)	1	39,398

※代表者受入分のみ掲載し、金額は、本学執行額を記載 (間接経費を含む)

学生関係施設

●大学会館

建物名称	階別	室名	用途等
大学会館	地下1	売店	文房具・書籍・日用品等購買
	1	食堂・就職情報資料室・ホール・インフォメーションコーナー	食堂（830席）・資料室・ホール
		軽食堂	喫茶・食事（72席）
	2	学生支援部長室	
		教育支援課	
		学生生活支援課	
		キャリア支援課	
	3	会議室	
		学生なんでも相談室	
		キャリアアドバイザー室	
		教育・学生支援センター	
		センター教員室（4室）	
		資料室	
	倉庫		

●学生寄宿舍及び国際交流宿舎

名称	区分	構造	入居定員（名）
男子寄宿舍		鉄筋5階建	100
女子寄宿舍		鉄筋5階建	100
国際交流宿舎		鉄骨鉄筋8階建	167
国際交流宿舎Ⅱ		鉄筋4階建	8
農学部住吉寄宿舍		木造平屋	20
合計			395

●体育施設・課外活動施設

◇木花キャンパス

施設名	種目
体育館（武道場）	体操・バスケットボール・バレーボール・バドミントン・ハンドボール・卓球 柔道・剣道・空手道・合気道・少林寺拳法等
陸上競技場（400m）	陸上競技
テニスコート（ハード・クレイ・オムニ）	テニス・ソストテニス
運動場	硬式野球・ソフトボール・ラグビー・サッカー・アメリカンフットボール
プール（50m）	水泳
馬場（厩舎）	馬術
弓道場	弓道
課外活動共用施設	体育系・文化系サークル共用室
	文化系（音系）サークル共用室

◇清武キャンパス

施設名	種目
多目的グラウンド	陸上競技・準硬式野球
球技コート	サッカー・ラグビー
テニスコート（ハード・クレイ）	テニス・ソストテニス
体育館	バレーボール・卓球・バスケットボール・バドミントン等
プール（50m）	水泳
武道場	柔道・剣道・空手
弓道場	弓道
（福利棟内） 音楽鑑賞室 和室	文化系クラブ及び学生の集会等

土地・建物

(平成23年5月1日現在)

区 分	土地 (㎡)	建 物 (㎡)		備 考	
		建面積	延面積		
【木花地区】	839,592	40,472	112,661	※安全衛生保健センターを含む	
事務局	}	1,007	3,274	※附属教育実践総合センターを含む	
中央機械棟		430	430		
門衛所		64	64		
大学会館		1,483	3,362		
体育館・器具庫		3,190	3,617		
教育文化学部		8,354	25,150		
工学部		7,001	22,288		
農学部		9,623	30,360		
農学部		5,791	25,136		
農学部附属フィールド科学教育研究センター木花フィールド(農場)		2,258	2,615		
附属動物病院		1,157	1,843		
附属農業博物館		417	766		
附属図書館		1,829	4,977		
産学・地域連携センター(産学連携施設)		1,178	2,013		
産学・地域連携センター(機器分析支援施設)		385	1,114		
国際連携センター		467	819		
フロンティア科学実験総合センター 遺伝資源分野		382	1,510		
フロンティア科学実験総合センター RⅠ分野 RⅠ木花分室		311	367		
情報基盤センター		662	1,254		
総合研究棟		750	1,421		
寄宿舎	931	3,691			
国際交流宿舎	835	4,687			
課外活動施設	1,114	1,840			
実験排水処理施設	226	173			
農学部水田	61,069	250	250		
【清武地区】	224,316	36,958	118,436		
医学部	}	11,076	34,539		
医学部事務局・フロンティア科学実験総合センター等		23,129	73,689		
医学部附属病院		854	1,715		
附属図書館医学分館		1,899	8,493		
総合教育研究棟					
【花殿・船塚地区】	65,295	9,478	16,808		
教育文化学部附属幼稚園	}	1,058	913		
木犀会館		132	132		
教育文化学部附属小学校	}	3,613	7,162		
教育文化学部附属中学校		3,916	7,310		
特別支援学級		3,518	759		1,291
【その他】	6,694,881	7,350	8,514		
農学部附属フィールド科学教育研究センター	}	500,680	6,412		
住吉フィールド(牧場)		6,188,097	759		1,033
田野フィールド(演習林)		6,104	633		1,069
延岡フィールド(水産実験所)					
職員宿舎	32,250	4,538	18,424		
職員宿舎(四)	1,295	360	1,800		
職員宿舎(五)	1,360	232	232		
木原新職員宿舎	10,706	1,464	7,330		
木原職員宿舎	10,494	1,261	4,178		
西新町職員宿舎	8,395	1,221	4,884		
保育施設(くすの木保育園)	973	252	225	(木原職員宿舎敷地内)	
計	7,857,307	99,048	275,068		

施設所在地

●木花キャンパス

0985-58-7111 (番号案内)

名称	所在地	電話番号
事務局		0985(58)2854
教育文化学部		0985(58)2889
附属教育実践総合センター		0985(58)5287
工学部		0985(58)2871
農学部		0985(58)2875
附属フィールド科学教育研究センター 木花フィールド(農場)		0985(58)7154
附属動物病院		0985(58)7286
附属農業博物館		0985(58)2898
附属図書館本館		0985(58)7147
産学・地域連携センター 機器分析支援部門	〒 889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地	0985(58)4017
教育・学生支援センター		0985(58)2868
フロンティア科学実験総合センター 遺伝資源分野		0985(58)7580
R1分野 R1木花分室		0985(58)2877
国際連携センター		0985(58)7104
安全衛生保健センター		0985(58)3423
情報基盤センター		0985(58)2867
清花Athenaサポート室(木花)		0985(58)7508
男子寄宿舎		0985(58)5005
女子寄宿舎		0985(58)4701
国際交流宿舎		0985(58)5000

●清武キャンパス

0985-85-1510 (代表)

名称	所在地	電話番号
医学部		0985(85)1510
附属病院		0985(85)1510
附属図書館医学分館		0985(85)9198
フロンティア科学実験総合センター 生理活性物質機能解析分野		0985(85)9427
生理活性物質探索病態解析分野	〒 889-1692 宮崎市清武町木原5200番地	0985(85)9718
生命環境科学分野		0985(85)0871
生物資源分野		0985(85)2971
分子形態・機能解析分野		0985(85)1784
R1分野 R1清武分室		0985(85)1514
安全衛生保健センター分室		0985(85)2392
清花Athenaサポート室(清武)		0985(85)1252

●教育文化学部

名称	所在地	電話番号
附属幼稚園	〒 880-0031 宮崎市船塚1丁目1番地	0985(24)6707
附属小学校	〒 880-0026 宮崎市花殿町7番49号	0985(24)6706
附属中学校	〒 880-0026 宮崎市花殿町7番67号	0985(25)1122

●農学部

名称	所在地	電話番号
附属フィールド科学教育研究センター 住吉フィールド(牧場)	〒 880-0121 宮崎市大字島之内10100-1	0985(39)1034
田野フィールド(演習林)(田野地区)	〒 889-1702 宮崎市田野町乙11300	0985(86)0036
(大納地区)	〒 888-0221 串間市大字大納字平原1885	連絡先 0987(76)2107 松下広幸方
(崎田地区)	〒 888-0009 串間市大字崎田字名切4270	
延岡フィールド(水産実験所)	〒 889-0517 延岡市赤水町376-6	0982(37)0327

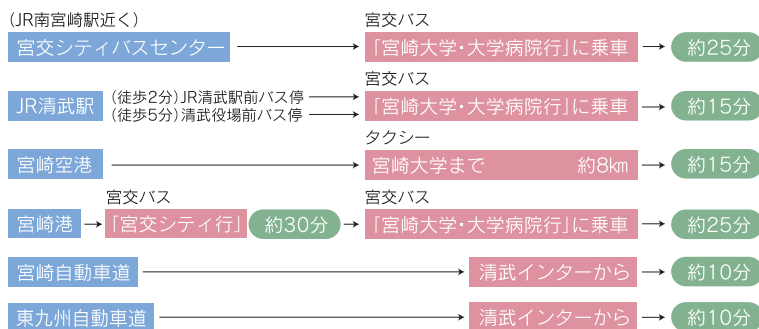
●その他

名称	所在地	電話番号
サテライト・オフィス	〒 880-0001 宮崎市橘通西3-3-24 MCCビル1階	0985(55)0553
医学部附属病院歯科口腔外科橘通りクリニック	〒 880-8586 宮崎市橘通西3-10-32 ボンベルタ橘東館8階	0985(65)6480
くすの木保育園	〒 889-1601 宮崎市清武町木原5600番地	0985(84)2211

問合せ先一覧

問合せ内容	問合せ先	E-mail	電話番号
宮崎大学の総合案内	総務課 総務係	soumuka@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-2854
広報について	秘書広報課	kouhou@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7114
情報公開について	総務課 総務係	soumuka@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-2854
授業料納入について	財務課 出納係	suitou@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7122
購入物品について(政府調達)	経理調達課 経理調達係		0985-58-7574
購入物品について	経理調達課 経理調達係		0985-58-2858
入試について	入試課 入試係	nyushi@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7138
就職関係について	キャリア支援課 キャリア支援係	syusyoku@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7141
学生生活支援(奨学金、授業料免除、アルバイト)について	学生生活支援課 学生生活支援係	kousei@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7976
証明書発行(在学生、卒業生)について	教育支援課 教務係	gakumukyomu@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7856
職員の採用について	人事課 人事係	jinjika@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7109
学生寄宿舎について	学生生活支援課 学生生活支援係	kousei@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7142
留学生の受入について	国際連携センター	ryugaku@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7134
産学連携について	産学・地域連携課	sangaku@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7951
外部資金申請関係について	研究推進課 研究推進係	k-jyosei@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7113
外部資金契約経理について	産学・地域連携課	gaibusikin@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7246
公開講座・地域連携について	産学・地域連携課	m-chiiki@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7188
教員免許状更新講習について	教育支援課 教員免許状更新講習事務係	kyomen@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7975
教育文化学部・大学院教育学研究科の総合案内	教育文化学部 総務係		0985-58-2889
医学部・大学院医科学看護学研究科の総合案内	医学部学生支援課教務係		0985-85-9194
工学部・大学院工学研究科の総合案内	工学部 総務係		0985-58-2871
農学部・大学院農学研究科の総合案内	農学部 総務係		0985-58-2875
大学院農学工学総合研究科の総合案内	工学部 教務・学生支援係 農学工学総合研究科担当		0985-58-7870
大学院医学獣医学総合研究科の総合案内	医学部学生支援課教務係		0985-85-9194

宮崎大学までの交通機関



※交通アクセスについては31ページにも掲載しています。

平成23年度 国立大学法人 宮崎大学概要

〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地
URL <http://miyazaki-u.ac.jp/>

[編集発行]

国立大学法人宮崎大学広報戦略室
TEL (0985) 58-7114 FAX (0985) 58-2818

平成23年7月発行



宮崎大学オリジナルキャラクター
「みやだいまうくん」